

vol.
50

2022.1

Tezukayama

大学通信帝塚山

UNIVERSITY LETTER

大学通信帝塚山50号記念



創刊25周年

Tezukayama University Letter

50th since 1997 edition

大学と在学生、保護者、
卒業生を結んで25年
帝塚山ファミリーをつなぐ
「大学通信帝塚山」

特集

大学と在学生、保護者、卒業生を結んで25年
帝塚山ファミリーをつなぐ「大学通信帝塚山」

- 02 「大学通信帝塚山」50号に寄せて
「記録」と「記憶」 学長 蓮花一己
- 03 「大学通信帝塚山」のこれまでを振り返って
「25」年の時を越えて
- 05 キャンパスレポート
- 07 地域連携×大学連携
- 09 クラブ・サークル活動紹介
- 12 Close-up News 「学習支援室」
- 13 キャリアサポート
- 15 卒業生紹介
- 16 保護者へのお知らせ
- 17 IRレポート
- 19 研究紹介
- 20 奈良学への招待・所蔵品紹介
教員業績図書紹介
- 21 帝塚山TOPICS
- 25 Event & Information
- 27 国際交流・入試情報

Tezukayama University Archives
帝塚山大学歴史絵巻 Vol.3帝塚山大学新聞2号に掲載の
森儀吉学長開学の式辞(1964年/昭和39年)

1962年(昭和37)、森儀吉学園長(当時、のちに初代学長)らの推挙で、欧亜30数カ国の教育事情を視察した熊沢安定学監(初代副学長)は、「教養」を主とした大学の必要性を痛感して帰国しました。

その考えは、森学園長が理想とする大学像とも重なり、学際的な学問が主流でなかった時代に、「テーマ・スタディ」を追究する「教養学部」を持った大学を開学するという革新的な事業へとつながりました。

開学式辞のなかで、森学長(1964(昭和39)年-1973(昭和48)年)は、「東大(の教養学部)は5本の指を広げたようなものだが、本学は握りこぶしにしたようなもの」と表現し、帝塚山大学は、日本精神、近代精神、国際精神のすべてを身につけてから、学際的かつ専門的な分野を極めるといった、新しいコンセプトの大学であることを強調しました。

この帝塚山大学の開学により、当時は学習院だけであった、幼稚園から大学までの総合学園が完成したのです。

写真は、帝塚山大学新聞(1号 1964(昭和39)年4月-30号 1971(昭和46)年3月)2号に掲載された森学長の式辞に関する記事。大学新聞部により発行されていた同新聞は、学生が編集に携わるという先進的な取り組みとして期待されていました。しかしながら、学生運動激化のあおりを受け、次第にその誌面内容が発刊当初の編集方針から逸脱するようになり、30号で廃刊となってしまいました。

「大学通信帝塚山」が1997年6月25日に第1号を創刊して以来25年が経ちました。これまで休むことなく年に2回のペースで広報誌を刊行し続けられたことを喜ばしく思います。

「大学通信帝塚山」が創刊される以前は、大学関係の広報関係誌としては学校法人帝塚山学園が発刊する「帝塚山学園新聞(現Time)」、大学同窓会が発行する会報誌「帝塚山大学同窓会通信(現わかみどり)」があるのみで、大学が継続的に発行する広報誌はありませんでした。そのような状況下で、「大学通信帝塚山」は、大学の大切なステークホルダーである在学生や保護者の方々に本学の教育方針や取り組みを伝えることを目的に発刊されました。創刊号の巻頭で当時の小泉進学長が次のように述べられています。

「大学の教育方針、教育現場の動きなどを学生の皆さんやご父兄の方々に伝え、学生の皆さんの大学での勉学を促進する一助にしたいと考えて」「大学はつねに教育の一段の充実に務めていて、大学の教育には新しい動きができます。(中略)積極的な姿勢で勉学に取り組んで貰うために、教育現場で起こっていることをできるだけ学生の皆さんに伝えたい」

これまで多くの在学生や卒業生、そして教職員が登場し、本学の多彩な取り組みが取り上げられてきました。そのときどきの大学教育を取り巻く環境の変化や新しい動きなども記事から読み取ることができます。まさしく、帝塚山大学のリアルな姿を映し出すコミュニケーションツールとして、本学の発展とともに「大学通信帝塚山」は歩みを進めてきました。

「記録」と「記憶」

「大学通信帝塚山」が、これまでと変わらず、大学と在学生、保護者そして卒業生との絆を結び、皆様の「記憶」に残る「記録」であることを心より願います。

帝塚山大学第15代学長 蓮花一己

「大学通信帝塚山」が1997年6月25日に第1号を創刊して以来25年が経ちました。これまで休むことなく年に2回のペースで広報誌を刊行し続けられたことを喜ばしく思います。

「大学通信帝塚山」が創刊される以前は、大学関係の広報関係誌としては学校法人帝塚山学園が発刊する「帝塚山学園新聞(現Time)」、大学同窓会が発行する会報誌「帝塚山大学同窓会通信(現わかみどり)」があるのみで、大学が継続的に発行する広報誌はありませんでした。そのような状況下で、「大学通信帝塚山」は、大学の大切なステークホルダーである在学生や保護者の方々に本学の教育方針や取り組みを伝えることを目的に発刊されました。創刊号の巻頭で当時の小泉進学長が次のように述べられています。

「大学の教育方針、教育現場の動きなどを学生の皆さんやご父兄の方々に伝え、学生の皆さんの大学での勉学を促進する一助にしたいと考えて」「大学はつねに教育の一段の充実に務めていて、大学の教育には新しい動きができます。(中略)積極的な姿勢で勉学に取り組んで貰うために、教育現場で起こっていることをできるだけ学生の皆さんに伝えたい」

これまで多くの在学生や卒業生、そして教職員が登場し、本学の多彩な取り組みが取り上げられてきました。そのときどきの大学教育を取り巻く環境の変化や新しい動きなども記事から読み取ることができます。まさしく、帝塚山大学のリアルな姿を映し出すコミュニケーションツールとして、本学の発展とともに「大学通信帝塚山」は歩みを進めてきました。

「記録」と「記憶」

「大学通信帝塚山」が、これまでと変わらず、大学と在学生、保護者そして卒業生との絆を結び、皆様の「記憶」に残る「記録」であることを心より願います。

帝塚山大学第15代学長 蓮花一己



広報誌「大学通信帝塚山」が創刊されて早や四半世紀。ここに50号の巻号を重ねることができました。

第一号が発刊された1997年は、今の法学部の前身となる法政策学部が開設されたときのことです。ほどなくして、大学創設以来の学部であった教養学部は人文文学部に改組され、帝塚山短期大学が短期大学部として大学に組み込まれた後、現代生活学部や心理福祉学部が新たに開設され、本学は文系総合大学への道を歩むことになりました。

そのような時代のうねりや、あるいは社会の要請に応じて、常に教育内容を改革してきた本学の方針や取り組みを、「大学通信帝塚山」では一貫して取り上げてきました。

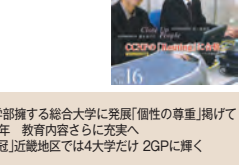
本特集では、「大学通信帝塚山」の25年を振り返ります。

Tezukayama Club Activities
(30号～32号/2011-2012)

2011年の冬号から2012年の冬号までで計3号発行されたクラブ新聞。大学通信



本誌と別刷りのA3サイズ、1枚もの(表面カラー・裏面モノクロ)。体育会系だけでなく文化系クラブやサークルまで幅広く取り上げられていた。



15号 6学部揃える総合大学に発展「個性の尊重」掲げて40年 教育内容さらに充実へ
16号 「2校」近畿地区では4大学だけ 2GPIに輝く

創刊日 1997年6月25日
発行数 年2回
発行者 「大学通信帝塚山」企画・編集委員会
発行部数 33,000部(2022年1月現在)
配布先 在学生とその保護者および卒業生、協定校・指定校、大学、連携協定先、近隣自治体など

13号 開学40周年… 新たな歴史スタート 6学部体制へ	11号 学長メッセージ 魅力ある大学へ 自己改革 心豊かな若者育成したい	9号 帝塚山大学から世界へ。 情報教育未来形。	7号 時代の要請に応え・ 大学5学部体制へ	5号 学長メッセージ 帝塚山大学から 始まるこれからの大学教育	3号 インターネット教育サービス 「TIES」ようこそTIES学園へ。	1号 学長メッセージ 大学に求められ ていること。本学がするべきこと。
14号 経営情報学部 学部開設5年。 学科設置から10年 元氣いっぱいBIT	12号 経済学部…チャレンジの時を迎えて 創設15年は通過点	10号 帝塚山大学の国際交流 進化する海外研修	8号 座談会 帝塚山大学の今日、 明日を語る。	6号 インターンシップ制度 企業での 就業体験はキャリアの第一歩	4号 学生会 大学と学生の間に立 つTVP役	2号 就職活動 時代を予測し、自分を見 つめる。



2003



2002



2001



2000



1999



1998



1997



大学院法政策研究科世界経済法専攻
(修士後期課程)設置



高い就職率の達成を目指す本学
キャリアセンターの取り組み
現代GP・派遣型高度人材育成
協同プランに選ばれる



大学院法政策研究科世界経済法
専攻(修士課程)設置
情報教育管理棟(7号館)竣工



現シンボルマーク制定
帝塚山短期大学を
大学短期大学部に組織変更



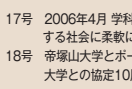
教養学部を人文科学部に改組
人文科学部日本文化学科・英語
文化学科・人間文化学科設置



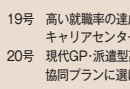
大学院人文科学研究科
日本伝統文化専攻修士後期課程設置
経営情報学部(経営情報学科)設置
TIESによる学生への教育支援開始



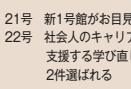
大学通信帝塚山創刊
法政策学部法政策学科設置
食堂・体育館増築完成



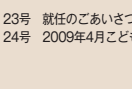
17号 2006年4月 学科の再編 変化
する社会に柔軟に対応できる人材を
18号 帝塚山大学とポートランド州立
大学との協定10周年記念



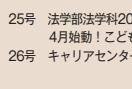
19号 高い就職率の達成を目指す本学
キャリアセンターの取り組み
20号 現代GP・派遣型高度人材育成
協同プランに選ばれる



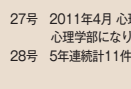
21号 新1号館がお目見え
22号 社会人のキャリアアップを
支援する学び直しプログラムに
2件選ばれる



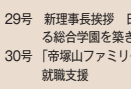
23号 就任のあいさつ
24号 2009年4月ことも学科開設。



25号 法学部法学科2010年
4月始動！こども学科開設
26号 キャリアセンターに行こう！



27号 2011年4月 心理福祉学部が
心理学部になります
28号 5年連続計11件の取組選定



29号 新理事長挨拶 日本をリードす
る総合学園を築き上げる
30号 「帝塚山ファミリー」で支える
就職支援



2005



2006



2007



2008



2009



2010



2011



こころのケアセンター設置



大学院人文科学研究科臨床社会心理学専攻(修士課程)設置
法政策学部法政策学科を法政策学部ビジネス法学科・
公共政策学科に改組
現代生活学部に食物栄養学科管理栄養士課程を開設
大阪中之島サテライトキャンパス設置
帝塚山大学出版会設立



新1号館竣工



大学ファミリークラブ設立



現代生活学部にもこども学科を設置
人文科学部を人文科学部に、同学部英語文化学科を
英語コミュニケーション学科に名称変更



法学部法学科設置
多摩大学と学術交流協定締結



心理福祉学部心理学科・
地域福祉学科を
心理学部心理学科に改組

2012



31号 経済学部開設・男女共学25周年
「伝統と革新」更なる飛躍をめざして
32号 学部・TF・キャリアセンターで支える
就職支援

2013



東生駒キャンパス図書館に
アクティブラーニングスペースが
オープン
帝塚山大学歴史館オープン

「大学通信帝塚山」の名物コラム&エッセイから～

「大学院人文科学研究科所蔵資料紹介」
(5号～/1999-)



1998年の人文
科学研究科設
置に伴い始
まった。36号
(2014年)で一旦
連載を終了し、
学園前キャン

パス16号館2Fに展示されている有名デザインの
椅子を紹介する「帝塚山所蔵Chair Galleryと
なり、45号(2019年)から帝塚山所蔵Galleryとし
て再び連載が始まった。47号(2020年)で「所蔵
品紹介」と改題。

「民俗よもやま話」(15号～38号/2004-2015)



第10代学長
であった故岩
井宏實先生に
よる民俗学に
関するコラム
。風俗や習
慣、儀礼や信
仰に関する有
形無形の民俗
資料をもと
に、日本人の日常の暮らしや文化を解き明かし
た。27号(2010年)から「よもやま話」を「よもや
ま噺し」に改題し、38号(2016年)まで連載が続
いた。そのコラムの後継として39号(2016年)か
ら始まった『「奈良学」への招待』の第一回目の
執筆者は、岩井宏實先生のご子息でもある岩井
洋前学長。奇しくも、親から子へと引き継がれ
ることとなった。

「伝統と革新」更なる飛躍をめざして
学部・TF・キャリアセンターで支える
就職支援

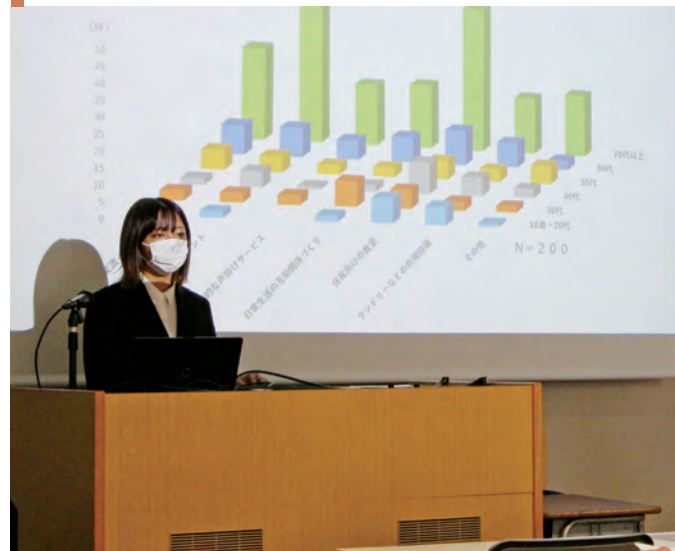
「大学の森」(6号～13号/1999-2003)

故高田英夫学園長(1982年～85年/大阪市立
大学名誉教授・帝塚山短期大学名誉教授)執筆
の植物に関するエッセイ。東生駒キャン
パスの豊かな樹木について植物学の専門家
ならではの視点で綴られている。逝去に伴
い連載が終了した。 [P.21](#)

CAMPUS REPORT

学科と研究科の特色ある取り組みを紹介します。

現代生活学部 居住空間デザイン学科



UR団地での生活調査の学内報告会を実施

この春に学園前のUR団地で実施した「コロナ禍における団地の生活調査アンケート」の分析結果について、研究に取り組んでいる学生3名が、8月26日に学園前キャンパスで報告会を行いました。報告会には、連携協定を結ぶUR都市機構の方々にもお越しいたぎ、さまざまな質問やご意見、アドバイスが飛び交って、大変充実したものとなりました。現在も調査は継続中で、より綿密な分析結果が出せるように励んでいます。

心理学部 心理学科



『2年生』の就職支援セミナーを実施

心理学部では、キャリア支援の取り組みとして、「2年生」を対象とした就職支援セミナーを今年から開始しました。例年は3年生から始まる就職支援セミナーですが、少しでも早い段階から就職への意識を高め、自己分析や企業研究を進めていくことは、将来への確かな道筋となります。2年生は、本セミナーを通じて就活の進め方や就活の意義について学び、実際にスマートフォンを使いながら興味のある企業を探すワークや自己分析に熱心に取り組んでいます。

人文科学研究科 日本伝統文化専攻



修士論文中間発表会を開催

大学院博士前期課程の学生にとって最大の関門は修士論文の作成です。まさにその渦中にある2年生4人が、10月に現在の成果を教員や先輩の前で発表しました。4人は各自のテーマである、弥生時代の絵画土器、江戸時代の猫をテーマとする文学、滋賀県の踏車(ふみぐるま)、古代の動物図像についてしっかりと発表を行い、教員も参加しての討論が活発に行われました。修士論文の完成は少し先になりますが、4人とも力の入った成果を出してくれるものと、十分に期待させる内容でした。

帝塚山大学大学院より GRADUATE SCHOOL

心理科学研究科 心理科学専攻

『深江丸』にて海上交通心理学実習

心理科学研究科では、「心理科学基礎論Ⅰ」の一環として、神戸大学大学院海事科学研究科協力のもと、同研究科附属練習船「深江丸」にて海上交通心理学に関する体験学習を行っています。例年は1泊2日の実習ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により今回は1日研修で、係船場につなかれた船の中での実習や船舶運航シミュレーターを用いた操船体験をしました。臨床心理学を専攻する大学院生にとって「海上交通心理学」は異分野ですが、シミュレーション操船で多角的判断の必要性を体験するなど、臨床に通じる新たな視点を得ることができました。



現代生活学部 食物栄養学科

身体機能向上に役立つ栄養素は？ 運動評価でデータを分析

卒業研究発表会に向けて、3-4年生が合同で身体機能に影響を与える栄養素について探求しています。特定の栄養素を摂取した後に握力や1000m急歩、反復横跳びを行い、高強度運動における筋力や持久力、敏捷性などを計測。得られたデータから身体機能の向上に最も効果的である栄養素を分析します。卒業研究発表会は、ゼミの教員の指導のもと、さまざまなテーマで研究成果を報告する4年間の学びの集大成。下級生は先輩が1年かけて取り組んだ研究発表を見学し、自分たちのゼミ選びの参考にします。



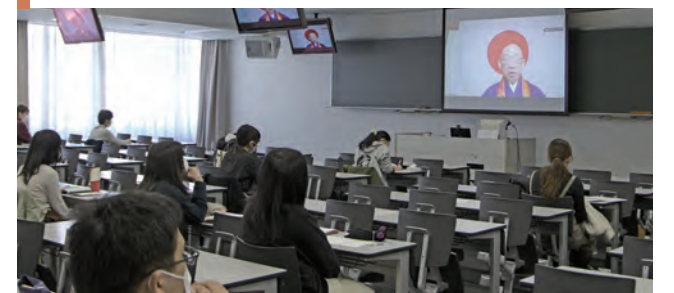
教育学部 こども教育学科



オンラインによる「リフレクション実習」で乳幼児や保護者と触れ合う

1年次後期には、併設の子育て支援センターの事業「集いの広場」で親子と実際に触れ合う「リフレクション実習」を行いますが、今年度はコロナ禍のため、1年生と親子をオンラインで結んで実習を行うことになりました。オンライン実習の前には、子育て支援センターの外の遊び場にいる子どもたちに2階の窓から「おはようー!」と挨拶して、遠隔での交流を始めます。「手遊び」「親子遊び」などを事前に十分に練習してから実習に臨み、画面いっぱいに笑顔を届けて素直な交流を続けています。

文学部 日本文化学科



帝塚山学園の大先輩による特別講義

2年生を対象とする日本文化演習で、信貴山朝護孫子寺成福院の鈴木貴晶貫主に特別に講演をしていただきました。本授業は、帝塚山学園同窓会との連携事業の一環で行われたもの。多方面で活躍する学園の先輩の話を通じて、学生が社会で働く意義や現実について理解を深めることを目的としています。今回の貫主の講義は「Zoom」のため画面越しでしたが、ご自身の経験のほか、コロナ禍によってもたらされた人間関係の難しさに触れながら、人と人のかかわり方についてお話いただきました。

法学部 法学科



警察官をめざす学生が受講 奈良県警察 大橋一夫本部長による講義

11月19日、法学部の特殊講義「警察組織と警察実務」において、奈良県警察の大橋一夫県警本部長による講義を実施。法学部では、現職の警察官や消防官、国家・地方公務員を講師に招き、仕事内容や求められる人材についてお話をいただく講義を多数開講しています。これらの講義を通じて、学生は地域の課題や公務員に必要な資質などを学び、実務能力とともにキャリア観を育みます。多くの学生が受講により公務員の夢をかなえ、今年は警察官21名、消防官1名、自衛官1名、地方公務員1名が合格を果たしています。

経済経営学部 経済経営学科



アニメやスポーツ、SNSも興味・関心のあるテーマを分析した考察内容を発表

経済経営学部では毎年大学祭の時期に「ゼミ研究報告会」を開催しています。3年生がゼミでの研究内容をプレゼンテーション部門とポスター部門に分かれて発表する同報告会は、前身の経済学部時代から数えると今年で10回目を迎えます。今年は、プレゼンテーション部門だけでも24組の参加があり、アニメやスポーツ、観光など多岐にわたるテーマについて、データ分析や、マーケティング調査による研究成果を披露しました。1年生は先輩の発表を見学し、今後のゼミ研究のヒントにします。



▲ノートPCを使ってグループで調べ学習
クロスワードパズルに苦戦する児童



竹本 歩夢さん
法学科3年

法学部の末吉洋文教授(平和学)のゼミ生ら9人が講師となり、11月18日、斑鳩町立斑鳩東小学校6年の児童約90人に、「奈良県と戦争」をテーマに平和を考える授業を実施しました。

この授業は、コロナ禍で修学旅行の行き先を長崎や広島から近場に変更する学校が増え、現地の平和学習の機会が激減したことを受けて企画されたもの。身近にある戦争遺跡や戦時中の暮らしを学び、小学生に平和への意識を高めてもらうことをねらいとしています。

学生は3クラスに分かれて、スライドを用いながら、県内の戦争遺跡のほか仏像疎開や大和野菜など奈良に関連が深いことについて概要を紹介しました。斑鳩東小学校の前身である斑鳩小学校では戦時中に食料不足のため運動場でサツマイモが栽培されていたことや、防空壕があったことなどを解説すると、驚きの声が上がりました。全体講義の後は、児童はグループになって、ノートPCで調べながら穴埋めクイズやクロスワードパズルに挑戦。楽しみながら「奈良県と戦争」についての知識を深めました。



▲皆が積極的に授業に参加

大学連携

本学では、他大学との学術連携のもと、教育・研究活動において協働事業を積極的に推進しています。他大学の学生との交流を通じて、学生は幅広い視野を養い、多分野にわたる知識を深めます。



▲法学部アドバンスクラスの学生による発表



▲飛世昭裕副学長によるあいさつ



▲居住空間デザイン学科の学生による発表

12月11日、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結する多摩大学(東京都多摩市)との大学連携事業である「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」が多摩大学で開催されました。今年で13回目を迎える本発表祭には、多摩大学のほか多摩大学の系列高校2校と大学院、東京経済大学(オンライン参加)に本学が参加し、多彩な内容のプロジェクトの発表を通じて学術交流を図りました。

発表チームは全部で24組。本学からは、現代生活学部居住空間デザイン学科の内海聖依さん、久保田結稀さん、原口志帆さん(ともに4年)と法学部・アドバンスクラスの川口和真さん、小山杏さん、中島伶那さん、中田奈歩さん(ともに3年)からなる2チームが参加し、それぞれ「大規模高齢年団地における入居者の生活スタイル研究」と「プラスチック問題の解決に挑む!」法学的アプローチを用いた企業及び個人への働きかけを目指して」のテーマでプレゼンテーションに臨みました。

前者はUR都市開発機構との連携プロジェクトで行った、近鉄学園前駅近くの集合団地の入居者に対する生活調査がテーマです。団地周りのコミュニティの発展をめざして、入居者に生活に関するアンケートとヒヤリングを実施し、調査データについて報告しました。後者は生態系に悪影響を及ぼすとして近年問題となっている海洋プラスチックごみを課題としたプロジェクトについての報告。法学部の学びにより解決の糸口を探り、現地視察や環境専門家からのレクチャーを経て立案した企画の提案を行いました。両チームともSDGs的な観点を取り入れた意欲的なプロジェクトで、20分という短い時間ながら熱の入った報告が行われました。

2月には、多摩大学および今回初参加になる大阪電気通信大学からの招待発表を迎え、本学主催の「実践学生発表祭」を開催する予定です。

12月11日、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結する多摩大学(東京都多摩市)との大学連携事業である「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」が多摩大学で開催されました。今年で13回目を迎える本発表祭には、多摩大学のほか多摩大学の系列高校2校と大学院、東京経済大学(オンライン参加)に本学が参加し、多彩な内容のプロジェクトの発表を通じて学術交流を図りました。

地域連携プロジェクトの成果を発表 第13回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭に 本学からは2チームが参加



▲越田謙治郎・川西市市長に
駅前活性化案をプレゼン



▲オスメの飲食店を書き込む



▲キラキラシールや折り紙で「おうち」を
デコレーション



▲プラレールが走る地図に
思い思いの「おうち」を

川西市では、阪急川西能勢口駅前の大型ペダストリアンデッキで月に1度、駅前ヒコニックマルシェが開催され、市の活性化に向けた実証実験を行っています。人の滞留と交流の促進とにぎわい創出を目的とした同マルシェに、10月30日、居住空間デザイン学科の学生が出店参加しました。

今回実現した企画は、同市の地域コミュニティデザインにかかわる北澤嘉治教授が指導する連携プロジェクトの一環で、越田謙治郎・川西市市長と同市の関係部局に昨年度オンラインプレゼンテーションを行ったことから始まりました。越田市長から「コロナが落ち着いたら企画を実行してほしい」と講評いただいたことがこの度の企画実践の場に結びつきました。

マルシェでは「出張! 大学生のプロジェクト(当でて! つくって! まちづくり体験)」と題して、まちづくりの体験型ワークショップを実施。参加者は用意しておいた段ボールの「おうち」模型にシールやマスキングテープでデコレーションし、川西市をイメージした大きな地図の好きな場所に置いていきます。

作った「おうち」を持ち帰ることができるお得感も受けてか、行列ができるほどの大盛況を見せました。そのほかにも、SNSでは得られない地域情報の交流ツールとして企画した、書き込み自由な地図ボードをデッキに設置。お気に入りのレストランやショップの情報を書き加える人もいて、新たな情報交流の場としての可能性を感じさせました。当日は越田市長も学生への激励に立ち寄ってくださいました。

「街の発展には、建築やインフラなどの都市計画だけでなく、人々がつながる仕組みも一緒にデザインするという、ハードとソフト両方の視点が必要」と北澤教授は話し、学生の一人は「今回得たデッキ利用者の行動や反応を次の提案に生かしたい」と語りました。今回の実証実験は、学生にとって、地域の課題を解決する「コミュニティデザインの本質を知り、企画立案力や実践力を磨く絶好の機会となりました」。

地域連携

本学は、自治体、企業、研究機関などと連携して地域や社会の課題解決に取り組む「プロジェクト型」学習に注力しています。奈良県を中心に各所で展開する地域連携、産官学連携のプロジェクトを通じて、学生は「時代を生き抜く力」と、「変化に対応する力」を身につけます。

地域の課題を解決するコミュニティデザイン
川西市の持続的発展に向けた
実証実験参加

居住空間デザイン科×川西市

心理学科の学生が県内小学校で
ストレスマネジメント教育

心理学科×奈良県内小学校

2021年2月から3月にかけて国立成育医療研究センターが実施した調査によると、新型コロナウイルス下で何らかのストレスを感じているとみられることも(小学生・高校生)は全体の70%以上上っていることが明らかにされています。

コロナ禍で学校生活もままならずストレスを感じている小学生を、心理学の知識で何かできないか。そう考えた鈴木諒さん(心理3年)ら学生14人が、11月、県内小学校で「自己理解」「他者理解」「柔軟な考え方」を身につけてもらうストレスマネジメント教育に臨みました。

山口祐子准教授や中地展生教授の指導を受けながら、学生がストレスマネジメントプログラムの計画書を作ったのが6月のこと。教育委員会に計画書を持ち込み、内容のブラッシュアップを図りました。8月には担任の先生を相手にリハサル、注意をそらすさないようにする工夫が足りない、「小学生の興味関心を引くアイテムが必要」などの手厳しい意見を頂きましたが、その後何度も小学校に足を運び、担



▲マイナスのイメージをプラスに変えることで、相互理解につなげる



▲グループワークでは活発に意見が交わされた



鈴木 諒さん
心理学科3年

任の先生の意見をもとにプログラムの改善に努めました。メンバーとでもできる限り対面でミーティングを行うことで方向性を共有し、授業練習を繰り返しました。

ついに迎えた本番では、「マイナスのイメージをプラスのイメージに変えよう」と題して、学生が小学校6年生3クラスを対象にプログラムを実施。寸劇やグループワークを交えた授業は大いに盛り上がり、アンケートには「楽しかった」「マイナスのメッセージをプラスに変えるようにしたい」といった好意的な感想が並び、小学生にとっても有意義なひとときになったようです。

学生は「一緒に活動するメンバーがいたからこそ実現できた。今後でも学校現場で支援できることはないか探っていた」と話し、これからの活動に意欲をにじませました。本取り組みの企画や実施を通じて、心理学の知識を社会の課題解決へどのように結びつけるかを学生は実践的に学びました。

クラブ・サークル活動紹介

レスリング部

創部以来初となる
全日本大学選手権で準優勝
グレコローマン55キロ級で天皇杯に選出

10月9日、10日にJ:COM末広体育館（大阪府泉佐野市）で開催された2021年全日本大学グレコローマン選手権に本学から8名が出場。55kg級の松岡大誠選手（経済経営3年）が本学初となる決勝に進出し銀メダルを獲得しました。他の階級でも、中央大学や近畿大学などの強豪大学を破り、出場8名中5名が入賞の好成績を残しました。全選手の勝ち点を合計した大学対抗得点では本学は青山学院大学に次ぐ第9位となり、西日本学生連盟所属の大学ではトップとなりました。また、10月20日から22日にかけて、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター（山口県周南市）で開催された2021年西日本学生選手権においても、本学からエントリーした選手が多数入賞することができました。

2021年西日本学生選手権

◇男子グレコローマンスタイル

55kg級	2位	松岡大誠（経済経営3年）
60kg級	3位	中村晟彦（法4年）
77kg級	3位	矢崎元也（経済経営2年）
87kg級	3位	鈴木岳人（経済経営3年）
97kg級	2位	沖野雷斗（経済経営2年）
	3位	荒木孝介（法3年）

◇男子フリースタイル

57kg級	3位	中本公平（日本文化2年）
86kg級	3位	吉田奨健（経済経営1年）



この大会のグレコローマンスタイル55kg級で準優勝を果たした松岡大誠選手（経済経営3年）が2021年天皇杯全日本選手権に選出され、12月19日、駒沢体育館（東京都世田谷区）で行われた初戦に臨みました。55kg級には現役世界王者や昨年度のアジア王者などの有力選手がエントリーしており、日本最高峰の舞台である今大会の中でも屈指の激戦区。松岡選手は明治大学の主将を務める選手と対戦し、1点を先取したものの最終的にはフォール負けを喫してしまいました。

多くの階級で選手が表彰台へと上り、本学の存在感をアピールできた今シーズン。来季の活躍が有望視されます。

ラグビー部

Bリーグ入替戦に
臨むも力及ばず
来期での雪辱を誓う

Bリーグ昇格への期待がかかった今シーズン。今季初戦を幸先よく大差で勝利し、その後も順調に白星を重ねて4勝1敗1分けのリーグ2位に。12月12日、大阪大学吹田キャンパスで行われたリーグ入替戦で、Bリーグ11位の大阪工業大学と対戦しました。試合は、終始リードを奪われる展開で、相手の力強い攻撃に活路を見出すことができず、残念ながら56-14で敗退。Bリーグ昇格を懸け全力で戦った選手たちでしたが、悔しい一戦となりました。後一歩というところまで来たBリーグ復帰に向けて、来季の奮起を誓います。



クラブ・サークルを通じて、
学内外で活躍する帝塚山大学生の姿をお届けします。

女子バレーボール部

昨秋から22連勝で1部リーグ
連覇に続き関西インカレを初優勝
皇后杯には奈良県勢で
初のファイナルラウンド進出

11月6日、1部秋季リーグで、ともにここまで全勝で駒を進めてきた神戸親和女子大学との最終決戦が東生駒キャンパス体育館で行われました。勝った方が優勝という緊張を一層あおる構図に、本学関係者からの応援にも熱が入りました。2連覇のプレッシャーがかかる試合に厳しい戦いが予想されましたが、本学が危なげない試合運びで3セットを連取し、11戦全勝での優勝を果たしました。11月21日、22日に行われた2021年度Phiten CUP 関西バレーボール大学男女選手権大会（関西インカレ）でも、リーグ戦の勢いのままに初優勝を決め、関西でのタイトルを制覇しました。

11月29日から始まった第38回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会（全日本インカレ2021）では第8シードとして初戦に東京女子体育大学を迎え撃ちましたが、高さのある攻撃力で押され、善戦及ばずに敗れました。12月10日には、令和3年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会のファイナルラウンドに奈良県勢として初めて臨み、Vリーグ所属のトヨタ車体クインシーズと対戦。一時はリードする展開もありましたが、Vリーグの攻撃の速さと高さに阻まれ、セットカウント0-2のストレート負けという結果に。4年生は大学最後の雄姿を、下級生は次年度を期待させる活躍を本大会で見せてくれました。



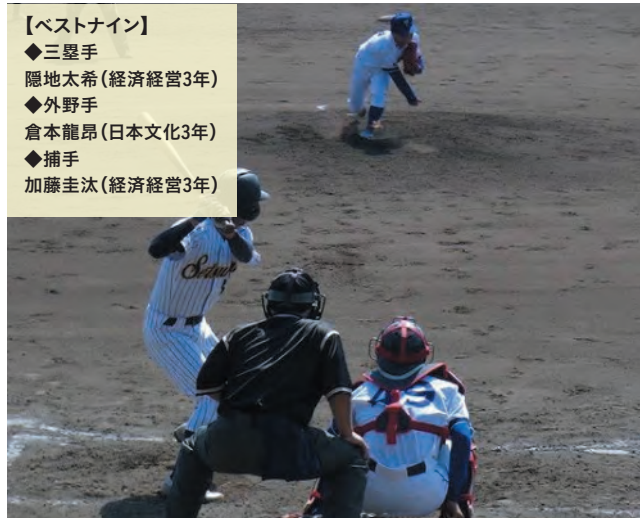
【1部秋季リーグ 個人賞受賞選手一覧】	
◆最優秀選手賞	吉田 美海（こども4年）
◆スパイク賞	吉田 美海（こども4年）
◆ブロック賞	中野 樹里（日本文化4年）
	横田 希歩（心理3年）
◆セッター賞	大西 風歌（法学3年）
◆レシーブ賞	中野 樹里（日本文化4年）
◆最優秀監督賞	本田 知広

硬式野球部

1部リーグ昇格は
来季へ持ち越しに
翌シーズンの奮起を期待

序盤より負けが先行する展開となった今季のリーグ戦。相手チームに先制され、その後攻めきれずに勝利を逃す試合が続きました。4勝6敗のリーグ4位に終わり、残念ながら1部リーグ昇格は来季へ持ち越しとなりました。2021年度秋季リーグ戦 2部東リーグのベストナインに本学から3選手が選ばれるという明るいニュースもあり、来季での飛躍が期待されます。

【ベストナイン】	
◆三塁手	隠地太希（経済経営3年）
◆外野手	倉本龍昂（日本文化3年）
◆捕手	加藤圭汰（経済経営3年）

帝塚山大学初
Vリーグ選手誕生！

Clubs & Circles

オールラウンダーな選手として
チームの勝利に貢献したい。

日本文化学科4年

中野樹里

まずは試合に出ることが目標。
行動面でも尊敬される選手に。

こども学科4年

吉田美海



関西女子一部队リーグを全勝で連覇し、関西インカレも優勝。皇后杯では、奈良県勢初のファイナルラウンド出場と、今年もめざましい活躍を見せた女子バレーボール部。その大躍進の立役者でもあった、キャプテンの吉田美海さん（こども4年）と中野樹里さん（日本文化4年）が本学始まって以来のVリーガーとなり、4月からは、吉田さんがデンソーエアリービーズ、中野さんがブレス浜松に所属することが決まった。プロとなる2人に話を聞いた。

バレーボールを始めたきっかけは？

吉田 中学の部活動で始めました。背が高かったのと友達もバレー部だったので、小学生のときにも誘われたんですが、そのときは何だか気が乗らなかったんです。

中野 私はちょっと動機が不純で（笑）。お菓子につられてバレーボール体験に行ったのが小学校2年生のとき。そのうち身体を動かすことが楽しくなつて、できることが増えてどんどん面白くなって…。

吉田 私は2つ上の先輩にすごく上手い人がいて、あななりたいて思ったのが続ける原動力になりました。

帝塚山大学に進学した決め手は。

吉田 1部リーグでプレーするのが夢だったので、いろいろ調べて帝塚山大学を選びました。本田監督から声をかけていただいたというのも大きかったです。

中野 私のも1部リーグでプレーしたかったから、高校選抜での知り合いが多かったというのも理由の一つです。

入部してみての印象は。

吉田 選手の自主性を大切にしてくれる

チーム。監督からは、とにかく自分で何がベストなのかを考えろと言われました。**中野** 高校までとは大きく違いましたね。自分で考えたことを大事にしてくれる。練習メニューを任せてもらえるのはうれしかったです。

吉田 1年生のときは、ただ試合に出たい一心で、皆がライバルでした。皆は仲間なんだと気づいたのは、試合に出られるようになってから。そのころから、自分のスキルを後輩に伝えていかなければと考えが変わってきました。

中野 入部した当初は監督に毎日怒られ続けて、実家に帰りたいと思ったほど。今から思えば自分の甘えが原因なんです。が、そのときはわかっていなくて。ケガをした先輩の代わりに初めて試合に出たとき、監督から「意識を変えないと、先輩が戻ってきたらポジションはないぞ」と言われて、目が覚めました。以来、自分がチームで果たすべき役割を考えて自主練習をするようになりました。視野が広がり、人間的にも成長できた気がします。

吉田 成長という意味では、3年生で秋季リーグで優勝したのは大きかったです。たまたま運が良かったからとは思われたくなかったので、連覇を目標に、練習メニューを見直すなどしていつも以上に自分を追い込みました。

中野 優勝経験は確かに転機に。皆が勝利に対して貪欲になりました。

吉田 いろいろな人からの応援が優勝へと後押ししてくれたのを実感しています。皆の応援に応えられる選手になりたいと心から思いました。

中野 あと、後輩ができて初めて、先輩が苦労したこと気づきました（笑）。

吉田 私も（笑）。生意気だったと今になって反省しています。

お二人とも春からはVリーガーですね。抱負をお聞かせください。

吉田 まずは試合に出ることが目標です。パワーで押すタイプではないので、ミドルもサイドもこなせるテクニックを磨いて、チームの勝利に貢献したいです。

中野 私は身長が高くないので、レシーブもスパイクも上手いオールラウンダーをめざしています。プロとして給料をもらうためには、勝ちにこだわって結果を残すということを第1に掲げたいですね。

後輩の皆さんにメッセージを

吉田 関西のタイトルは制覇できたので、全国に帝塚山大学の名前をとどろかせてほしいです。プレー面だけでなく人格面でも支持されるような立派な選手をめざしてほしいですね。

中野 リーグ連覇で今まで以上に追いかける立場になったので、優勝校として行動面でも目標とされるようになってください。応援してください皆さんの期待に応えられる結果を出してほしいです。

吉田 とりあえずは、リーグ3連覇と全日本インカレベスト4が目標！

中野 全国の壁は高いですが、皆なら突破できると信じています！

中野・吉田 プレッシャーに負けずに、これからも高みをめざしてください！卒業してからも応援しています。私たちもVリーグで頑張りますので、応援してくださいね。

どうもありがとうございました。

Close-up News

レポートの書き方から
SPI や教職採用試験などの就職支援まで
幅広い学習の悩みに応える

学習支援室

「授業でわからないところがあるけれど、質問できなくて」
「レポートを書くときのコツを知りたい」
「就職試験用のSPI対策。何から始めていいのかわからない」
「教員をめざしているのだけど、一人では勉強しづらい」
学習支援室は、履修登録の方法やレポートの書き方から資格試験や
就職試験の対策まで、大学での学びに関して何でも相談できる場所。
常駐の教職員が、学生の学習をいろいろな形でサポートしています。

大学での学びに必須のアカデミックスキルを

ノートの取り方、レポートの書き方、英語やSPIなどでわからないことがあれば
学習支援室へ。専門の教員が相談に乗ります。

【例えばこんなこと】

- ◆ノートの取り方、レポートの書き方、勉強の仕方
- ◆英語 (TOEIC®、TOEFL®などの資格試験対策)、留学相談
- ◆SPI、時事問題、教職試験などの就職試験対策 など

※学生生活や履修の相談、学科の専門分野に関する相談は、アドバイザー
制度やオフィスアワー制度を活用しましょう。

場 所	開室時間
東生駒キャンパス 8号館1階(図書館1階)	平日(月～金) 9:00～17:00
学園前キャンパス 16号館6階	土・日・祝日 休み

教師塾

教員採用試験を合格まで強力にバックアップ

学習支援室では、教職をめざす学部・学科の3年生を対象にした教員採用試験対策プログラムを実施しています。
筆記試験をはじめ、面接、実技など教員採用試験に対応したカリキュラムで、試験直前まで徹底的にサポートします。

同じ目標の仲間と頑張れる



「先生になる」という共通の目標を持つ
学生と切磋琢磨しながら合格をめ
ざせます。筆記、面接、実技など実際の
教員採用試験に対応したカリキュ
ラムを整えています。

教員経験者がきめ細かく指導



高校の元校長など専門家の講師がき
め細かくレクチャー。専門分野に特化
した内容だけでなく、教員経験者だか
らこそ可能な指導で、教育現場が求
める力を育みます。

試験の種類に応じた対策も万全



採用試験の対策講座を多数開講。3
年次からの週に1度の講義のほか、試
験直前には集中講義も。自治体の傾
向や、学生の習熟度に合わせてきめ
細かく指導します。

教師塾の積極利用で、教員採用試験に合格

内定先 大阪府教育委員会(高等学校・国語)

中学生のころから教師になるのが夢だった私。オープンキャン
パスで「教師塾」の存在を知り、他大学にはない取り組みに「これだ」と直感。帝塚山大学への進学を決めました。教師塾で模擬授業から個人面接まできめ細かく指導していただいたことが、教員採用試験合格に結びつきました。



才田 莉緒さん
文学部日本文化学科4年

イルミネーション実行委員会

学園前
キャンパスキャンパスを鮮やかに
彩るイルミネーション
両キャンパスでの実施は11年ぶり

冬の風物詩でもあるキャンパスイルミネーション。今
年のテーマは「小さな幸せ」です。コロナ禍だからこそ、日
常の中にある小さな幸せに目を向け、それを一つひとつ
集めることで大きな幸せ(光)になるようにという思いを
込めて、イルミネーション推進委員会がデザインしまし
た。

今年は、2010年以来、東生駒キャンパスにもイルミネーションが復活し、時
計台前のメタセコイヤの木が金色のクリスマスツリーを思わせるしつらえに。
ツリー下には青くきらめく植込みが広がります。17回目の開催となる学園前
キャンパスでは、16号館に続く渡り廊下や図書館前の通路、ほとんどの広場前の
階段などに趣向を凝らした色とりどりのイルミネーションが施され、華やかな
光がキャンパスを照らしています。

12月7日(学園前キャンパス)と13日(東生駒キャンパス)に、それぞれのキャン
パスで行われた点灯式では、蓮花学長とイルミネーション推進委員会の学生
が挨拶を行いました。その後、MCによるカウントダウンの合図とともに、一斉
に青や金色の発光ダイオード(LED)が灯され、キャンパスに幻想的な空間が
出現。学園会(学生会)から無料で配布された温かい缶ドリンクやスープで暖
まりながら、友人同士で記念撮影に興じていました。帰途に急ぐ学生も、しば
し足を止めて光が織りなす神秘的な景色に見入っていました。



点灯時間 17:00～20:00
点灯期間 2022年2月8日(火)まで
(学園前キャンパスは一般の方には
入構いただけません)

大学祭実行委員会

東生駒
キャンパス第57回帝塚山大学大学祭
「虹色祭」を開催

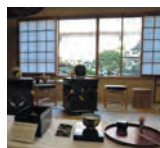
11月20日、秋晴れのさわやかな空の下、
第57回帝塚山大学大学祭「虹色祭」を開催
しました。例年は一般の来場者も受け入れる
「虹色祭」ですが、今年も昨年に引き続いて
学生と教職員に入場を限定。サーマルカメ
ラによる検温や、学生証による来場者管理
などで、コロナ禍のイベントとして万全の体
制で実施しました。

飲食を提供する模擬店はないものの、クラ
ブやサークルによるステージパフォーマンス
のほか、お化け屋敷にフラワーアレンジメント
やドローン操作体験、学科ごとの学修成果の展示など、大学祭ならではの企画
が多数行われ、東生駒キャンパスは多くの学生でにぎわいました。

昨年は実施できなかったお笑い芸人やアーティストを招いてのLIVEもソー
シャルディスタンスに配慮した座席配置のもとに敢行し、ステージとなった6号
館前の中央広場は熱気に包まれました。この日一番の盛り上がりを見せたの
は、第98回全国高校サッカー選手権大会の応援歌を歌った三阪咲さんの限
定LIVE。奈良県では初めての公演です。三
阪さんの迫力のある歌声に、会場に詰め掛
けた学生らが手を振って応え、会場のボル
テージは最高潮に達しました。

そして、虹色祭の最後を飾るのは恒例
の打ち上げ花火です。音楽に合わせて大
きな花火が夜空へ次々と放たれ、グラウン
ドではレーザー光線のような色とりどりの
ライトが乱舞するさまに参加者から大きな
拍手が沸き起こりました。

当日会場に来ることができない在学生
や一般の方々に向けては、奈良テレビのYouTubeチャンネルでステージイベン
トをライブ配信し、遠隔でも虹色祭をお楽しみいただきました。



委員長からひとこと

模擬店ができなかったのは心残
りだけど、皆に楽しんでもらえ
たようで満足。フィナーレの花
火を見てようやく肩の荷が下り
た。大学祭運営を通じて、情報
共有やチームワークの大切さを
学べたように思います。



澤野 達哉さん
日本文化学科3年

注目のサークル

アイススケートサークル

学園前
キャンパス

10月23日、24日に大阪府立臨海スポーツセンター(大阪府高石
市)で開催された第15回西日本学生フィギュアスケート選手権大
会(主催:日本学生氷上競技連盟)に本学のアイススケートサー
クル(顧問:教育学部・松浦真理教授)の栗栖綾侑子さん(こども
教育1年)が女子5級に出場し、優勝しました。これにより1月に帯
広市で開催される第94回日本学生氷上競技選手権大会(インカ
レ)への出場権も獲得しました。幼少期からフィギュアスケートを
続けてきた栗栖さんは幼稚園の教諭として働く夢をかなえようと
本学へ進学しました。勉学と競技を両立させるために、入学と同
時に公認サークル設立に奔走し、部員の募集や部の規約作りから
競技連盟への登録手続きまでを全て一人で行いました。サークル
設立からわずか5カ月後に出場した大会で優勝するという快挙
で、今後の活躍がますます期待されます。栗栖さんはスケートが
初めての部員への指導も行い、競技の楽しさを広く知ってもら
う活動にも取り組んでいます。





Career Report

内 定 者 速 報

SPIは早めの対策が肝心

内定先 一般社団法人
日本自動車連盟

キャリアセンターを利用し始めたのは3年生の秋ごろから。何度も通って履歴書の書き方や面接対策についてアドバイスを頂きました。面接では文学を通じて学んだことを仕事にどのように生かせるのかをアピール。SPI対策に早めに取り組んだことも勝因だったと思います。



溝端 彩乃さん
文学部
日本文学学科 4年

自己開発ゼミナールで学んだ自己理解が力に

内定先 山崎製パン株式会社

3年生から「自己開発ゼミナール^{※1}」に参加して、自己分析をしっかりとできたことが役に立ちました。資格講座を活用してFP2級や販売士検定3級などを取得。面接練習や履歴書添削で丁寧に指導していただいたので、面接で緊張しがちだった自分でも自信を持って就活に臨むことができました。



村田 健悟さん
経済経営学部
経済経営学科 4年

CAREER NAVI BOOK

保護者のための就職支援ガイド

この冊子では、学生の就職活動を支援するキャリアセンターの取り組みやご家庭での就活サポートのポイント、過去3年間の就職実績などを紹介しています。ご家庭で就職の話題が出たときは、過去の価値観やイメージに頼らず、人生のよき先輩として、相談や悩みに耳を傾けてあげてください。その一助に、本冊子をご活用いただければ幸いです。『CAREER NAVI BOOK』はキャリアセンターで配布しています。



表紙

中面

難関資格を武器に情熱で押した就活

内定先 旭化成ホームズ株式会社

B制度^{※2}を利用して、宅建やFP2級の資格を早い段階で取得できたことが自信に。就活では、「この会社でいんだらうか」と気持ちが揺らいだこともありましたが、キャリアセンターで面談を繰り返したからこそ自分の目標がはっきりと見えてきました。新卒カードは一度だけ。皆さんも全力で就活に取り組んでください。



富田 慧晟さん
現代生活学部
居住空間デザイン学科 4年

忙しい中だからこそキャリアをフル活用

内定先 タマノイ酢株式会社

食物栄養学科は実習が多いので、ひと段落ついたのが3年生の春休み。就活は3月からと遅めでした。キャリアセンターは主に面接練習で活用し、きめ細かいアドバイスを頂きました。食品業界にねらいを定めて幅広くチャレンジし、実験・実習・課題で時間のない中でしたが効率的に就活を進められました。



横山 ももさん
現代生活学部
食物栄養学科 4年

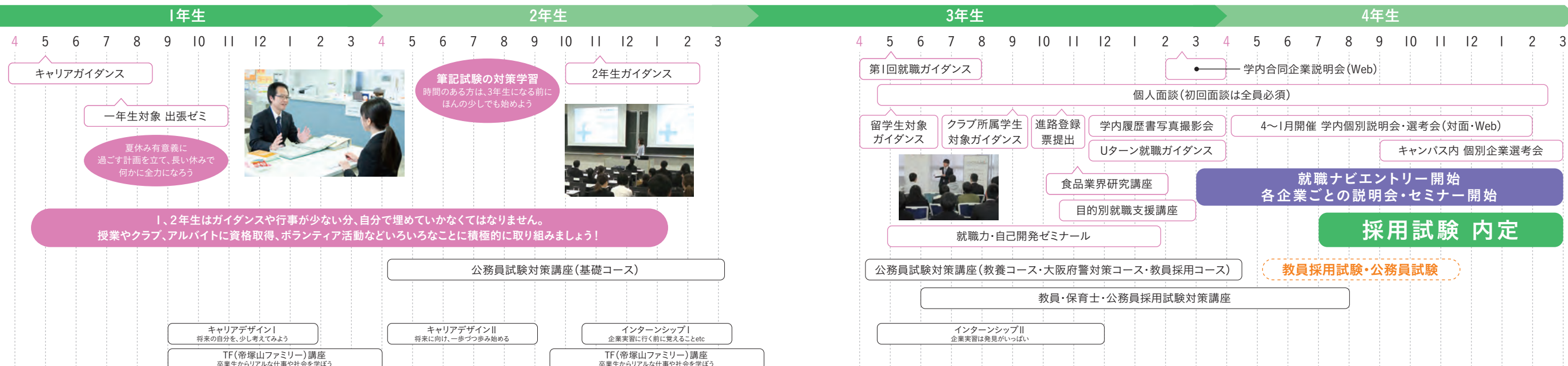
※1 本学独自の「就職力」を養う講座。専門講師の指導により自己理解を深め採用試験に対応できる力を育む
※2 本学独自の資格取得を支援する制度である「特別資格サポート制度B制度」のこと 対象講座から年間最大5講座を5,000円で受講可能

4年間の就職活動スケジュール

1年次から始まるキャリアプログラム。夢に向かって4年間の活動計画を立てよう！
対面・オンラインとも豊富なサポートプログラムを大いに活用しましょう。



※内定取得した学生は特に『後期履修科目』は余裕を持って登録しよう
←留年すると内定も危険

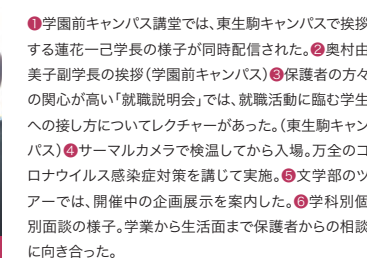


キャリアデザインⅠ
将来の自分を、少し考えてみよう
TF(帝塚山ファミリー)講座
卒業生からリアルな仕事や社会を学ぼう

キャリアデザインⅡ
将来に向け、一歩ずつ歩み始める

インターンシップⅠ
企業実習に行く前に覚えることetc
TF(帝塚山ファミリー)講座
卒業生からリアルな仕事や社会を学ぼう

保護者の皆さまへ



2021年度 保護者教育懇談会・就職説明会を両キャンパスで開催

本学では、学生の修学や大学の支援状況について保護者の皆様に理解をさらに深めていただく機会として、教職員と直接懇談できる「保護者教育懇談会・就職説明会」を毎年開催しています。10月17日、サーマルカメラによる検温のほか、換気や座席配置に配慮して徹底したコロナ対策を講じ、令和3年度同懇談会・就職説明会を東生駒キャンパスと学園前キャンパスで同時開催。コロナ禍で参加人数を制限する中、218家庭から304名もの保護者にお越しいただきました。

本学の「保護者教育懇談会・就職説明会」では、午前中はキャリアセンター主催の就職説明会、昼食をはさんで午後からは学科ごとの教育懇談会を実施することで、教育内容から就職活動に至るまで保護者が気になるポイントを一日で網羅しています。冒頭の蓮花一己学長の挨拶は、昨年に続いて、東生駒キャンパスから学園前キャンパスにリアルタイムで配信され、学園講堂のスクリーンには蓮花学長の姿が大きく映し出されました。

就職説明会では、今年の採用動向のほか、保護者世代とは大きく異なる昨今の就職活動の進め方について詳しい解説がありました。特に、子どもたちの就職

活動へのかかわり方に関しては、学生の実際の声を例に挙げて、保護者へのアドバイスが送られました。その後は各学科に分かれ、教育方針や学生支援内容を詳しく紹介。専任教員の紹介とともに、担当科目やプロジェクトを中心とした学科の取組みについて、スライドを用いて丁寧に説明が加えられました。続く個別面談では、学生の成績や就職、キャンパスライフに関する保護者からの相談に教員が応じ、希望者には施設ツアーが行われました。参加された保護者のアンケートには「現在の就職事情について知らないことが多いので勉強になった」「実際に先生にお会いして話を聞けてよかった」「コロナ禍での授業に不安があったが、具体例を見せてもらえて納得できた」など、対面での懇談会だからこそ得られる安心感を強調されるコメントが多く書かれていました。

学科説明と就職説明会については全イベントを録画し、ご参加いただけなかった保護者の方々が閲覧できるように配信しています。

本学はこれからも、「学生への教育・支援がきめ細かい」大学を目指し、より充実した教育活動を展開してまいります。

帝塚山大学同窓会「わかみどり会」から
支援金の寄付 学修環境が一層充実

帝塚山大学同窓会「わかみどり会」から 1000 万円が寄付され、9月25日、目録と感謝状の贈呈が東生駒キャンパスで行われました。同窓会からは、昨年度も、コロナ禍による家計の急変で困窮した在学生に対して2000万円の緊急支援金の寄付を頂いています。目録・感謝状贈呈式では、同窓会の小川育子会長より奥村由美子副学長に目録が手渡され、奥村副学長は小川会長に感謝状を贈りました。

この寄付金により、これまでは東生駒キャンパスにしかなかったノートPCの自動貸出・返却システムが、学園前キャンパスにも設置されることになり、IC学生証やネットで利用予約ができるだけでなく、事務室対応時間外でもノートPCが利用可能になりました。学内Wifiのアクセスポイントも増設し、ネット環境も今まで以上に快適になりました。さらに、自前のスマホ、タブレットやノートPCからでもオンデマンドプリンターで印刷できるシステムも導入し、好きなときに好きな場所で自習ができる環境がより充実することになりました。



スピーディにタイムリーに世界中を結びつける

私が勤める株式会社上組（以下、上組）は、神戸を中心に国内外に物流拠点を展開する総合物流企業です。日本から世界、世界から日本へ、青果物から自動車、鉄鋼など、ありとあらゆるモノを届ける、いわば輸出入の要となる事業を担っています。私は、東南アジアから輸送されるゴマや香辛料などの食品原料を日本の工場に届ける仕事を担当しており、香辛料についての知識ならスパイス香辛料ソムリエにも負けない自信があります。スーパーなどで自分が担当している食品メーカーの商品が置いてあるのを見ると、自分がどれだけ安全に配慮して原材料を扱っているのかを、家族や友人につい熱弁してしまい、引かれ気味に対応されてしまうことも…。こんなとき、すっかり上組の社員になったんだと実感します。

大学時代は硬式野球部のレギュラーで、1部リーグで神宮をめざして野球漬けの日々を送っていました。勉強より野球の毎日だったのですが、1つのことを一生懸命にやり遂げた経験は、仕事をする上で大事なことで、入社してから上司に評価してもらえたことはうれしかったです。ただ、社会人になって振り返ると、あの授業が仕事に役に立ったのではと思うことも多いので、在学生の皆さんは、勉強とクラブ活動を両立させて、めざす将来の実現に向けて充実した生活を送ってほしいと思います。

上組を志望したのは、本社が自宅の近くにあり、馴染みのある会社であることがきっかけでしたが、入社してみても、グローバルに展開する事業の奥深さに魅せられました。今後は、食品原料以外の貨物を扱って、より多くの顧客のビジネスを円滑に進められるようサポートしていくのが目標です。



在学時の思い出

石田さんがレギュラーで活躍していたときの硬式野球部は1部リーグに所属。入替戦を突破して1部リーグ復帰を果たしてほしいと後輩たちにエールを送る。

世界のひととモノをつなぎ
顧客のビジネスをサポート

株式会社上組 | 大阪支店

石田 章吾さん

経営学部経営学科
(現:経済経営学部経済経営学科)2015年3月卒業

卒業生紹介

個性や性格を見極めて
子どもの成長を見守る



奈良市立三笠保育園 | 保育教育士

佐藤 裕菜(旧姓竹内)さん

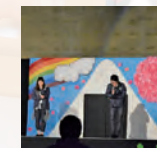
現代生活学部こども学科
(現:教育学部こども教育学科)2018年3月卒業

3資格の勉強を通じて、自分の将来像が明確に

奈良市の公立園で保育教育士として働き始めて4年。今年度から2歳児クラスの担任を務めることになりました。子どもの成長を感じ取れたとき、保護者から信頼されていると思えたとき、この仕事に就いてよかったと実感します。ただ、言葉の理解がおぼつかない乳児期の子どもの相手なので、毎日が試行錯誤の連続です。特に、「言葉かけ」は常に悩ましく、経験豊富な先輩の方法を参考にしつつ、月齢や性格の違いを考慮しながら、一人ひとりに合わせた言葉の選択や声をかけるタイミングを自分なりに工夫しています。今後は、支援を必要とする子どもへの対応力を磨いていくことが目標のひとつです。

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3資格が取れることに魅力を感じて、帝塚山大学に進学しました。子どもの12年間の成長を見据えた保育計画を立てられるのは3資格の勉強をしたからこそ。なりたと思う教育者像をはっきりさせるためにも、在学生の皆さんにはぜひ3資格取得をめざしてもらいたいですね。また、帝塚山大学では、子育て支援センターや、地域でのプロジェクトなど、実践的な学びの機会が多いので、仕事に生かせる知識やスキルが自然に身につけられたように思います。例えば、卒業論文で取り上げた育児担当制保育。乳児を見ることが多い今、その知識が非常に役に立っています。

勉強に課外活動にボランティアにと全力投球したので、大学生活の4年間は本当にあっという間でした。採用試験にあたっては、学部の先生方や教職支援センターの先生方に毎日のように実技や面接練習をご指導いただきました。先生方に支えられて、今の私があります。在学生の皆さんも、心強い先生方を頼りに、いろいろなことにチャレンジしてみてください。



在学時の思い出

在学時は執行委員会に所属し、新入生歓迎会などのイベント運営を担当。司会の大役も果たした。そこで培ったコミュニケーション能力は今の仕事に大いに生かされているという。

IR REPORT

図2 授業開講期間中の1週間あたりの授業時間外の学習時間(ひとつ選択)

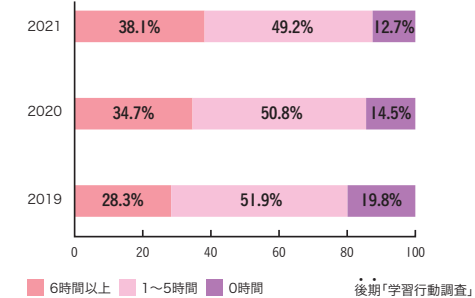
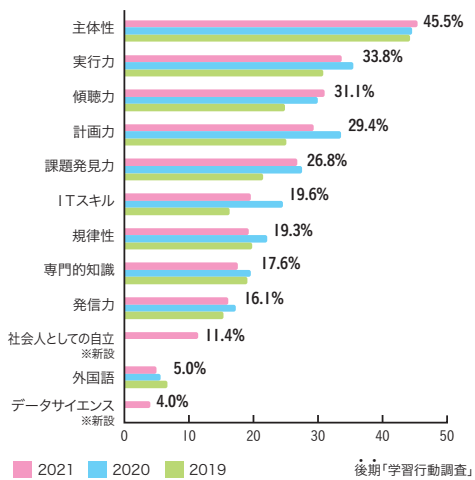


図3 これまで身についたと思う「力」や「知識」(複数選択可)



紙面の都合上、全ての設問を掲載することはできませんでしたが、今回の調査結果について、今後、大学としてさらなる

遠隔授業の導入で伸びる授業時間「外」の学習時間

後・履修登録時の調査において、「授業開講期間中・1週間あたりの授業時間外の学習時間」を尋ねたところ、「6時間以上」と回答した学生の割合は38.1%で、昨年度の調査と比べて3.4%増加しました。一方、「0時間」と回答した学生は12.7%で昨年度よりも1.8%減少しました。図2。学習時間については全国的に少ないことが言われ、本学でも同様に課題となっていますが、コロナの影響を受け遠隔授業が導入された昨年度の調査から学習時間の伸びが顕著に表れており、大きく改善傾向を示しています。この結果は、先述の「授業への取組姿勢・態度」図1とも関係しているとみられ、自主的に学ぶ学生の増加が授業時間外の学習時間の増加にもつながっていると考えられます。ただ、遠隔授業、特にオンデマンド型によるものは、学生が自分の生活スタイルに合わせて好きな時間に受講できるため、学生の実態を把握するにあたり、授業時間内

と外の学習をどこまで厳密に切り分けて捉えているのか、学習時間に対する学生の認識についても考慮する必要があります。

コロナ禍1年目と2年目、変わる学生の成長実感

後・履修登録時の調査において、「これまで身についたと思う力や知識」を尋ねたところ、「主体性」(45.5%)の割合が最も高く、次いで「実行力」(33.8%)、「傾聴力」(31.1%)の順となりました。図3。一方、下位3項目は「データサイエンス」(4.0%)、「外国語」(5.0%)、「社会人としての自立」(11.4%)で、今年度調査より新たに追加した2項目がいずれも下位という結果になりました。「データサイエンス」については、本学では2021年4月よりデータサイエンス教育の全学的な展開を開始したところで、今後の伸びを期待したいところです。全体的に昨年度の調査から数値の低下がみられますが、この調査はあくまで学生の主観に基づくため、それぞれの力・知識が実際にどの程度

身についたかは、複数の測定指標を用いて多面的に検証する必要があります。コロナ前の2019年度の調査結果と比較すると概ね数値は向上しており、コロナ禍1年目となる2020年度調査の大幅な数値の伸びからは、突如として出現した新型コロナウイルス感染症が学生に与えた心理的影響の大きさが推察されます。

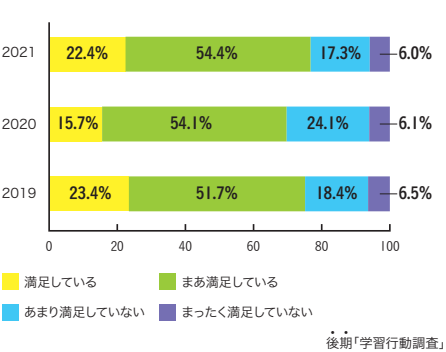
昨年度より上昇した帝塚山大学への満足度

後・履修登録時の調査において、「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねたところ、「満足している」「まあ満足している」と回答した割合の合計は8割弱で昨年度より上昇しました。図4。コロナ禍も2年目に入り、遠隔授業等、当初は試行錯誤だった「Withコロナ」に対応した教育や学生支援も、少しずつ経験・知見が蓄積されてきました。学生の満足度向上は、これらの取り組みの改善効果が表れているものと考えます。



▲2021年度から全学部全学科の学生がデータサイエンスの基礎を学べるようになった

図4 帝塚山大学への満足度(ひとつ選択)



検証を重ね、学生の満足度向上に繋がられるよう教育・学生支援の改善・充実に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、10月に開催しました保護者教育懇談会・就職説明会におきまして、参加された保護者の方を対象としたアンケートを実施いたしました。ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

2021年度学習行動調査実施概要

- 調査期間 前期: 2021年3月24日～4月14日 後期: 2021年8月24日～10月1日
 - 対象 前期: 新2年生以上の在学学生 後期: 在学生全員
 - 調査方法 webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力
 - 回答者数・率 前期: 2,722名(男子1,437名・女子1,285名)、97.8% 後期: 3,391名(男子1,716名・女子1,675名)、93.6%
- ※IRレポートには含まれていませんが、学習行動調査は大学院生にも実施しています。
- ※前期と後期では設問が異なります。
- ※調査結果の比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

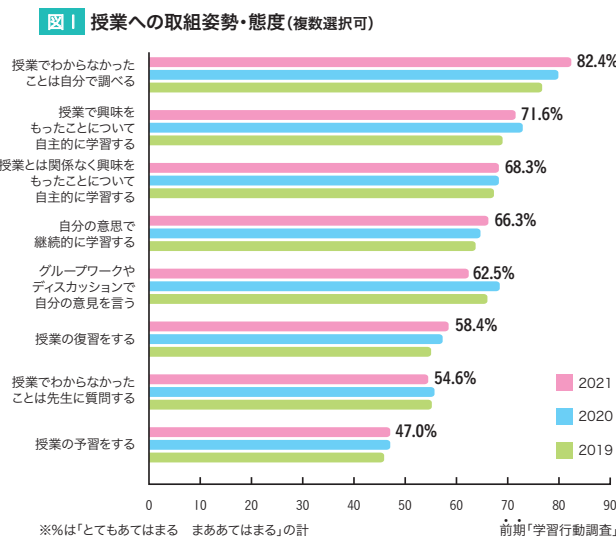
学習行動調査からみる帝塚山大学生

帝塚山大学では、入学から卒業までの大学生活4年間を通して、学生を対象とした各種アンケートを定期的に実施し、その結果を教育活動・学生支援の改善に生かすべくIR^(※1)に取り組んでいます。その取り組みのひとつとして、「学習行動調査」では、在学生を対象に、毎年度、前期・後期それぞれの履修登録期間中、学習経験や学習時間、学習意欲、大学の学びで身についた力・知識などを調査しています。今回は、この「学習行動調査」の結果を分析し、導き出された課題を整理することで、今後の本学の教育内容・方法や学生支援の改善に役立てていきます。

自主的に学ぶ意欲を示す学生の割合高

前期・履修登録時の調査において、「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を選択形式で尋ねたところ、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が最も高かった項目は、「授業でわからなかったことは先生に質問する」(82.4%)で、次いで「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」(71.6%)、授業と

は関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」(68.3%)が上位に挙がりました。図1。過年度の調査結果と比較してみると、「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う」(62.5%)などは数値が低下しており、これについては新型コロナウイルスの影響で対面による学生同士のふれあいや学びの機会が減ったことが要因として考えられます。今後、感染予防対策の徹底を図りながらグループ



▲図書館(学園前)の閲覧室。コロナ対策のパーティションを学習スペースに設けている

ワークなどの機会をどのように確保していくか、課題のひとつと言えます。一方で、先述の授業でわからなかったことは自分で調べる」ことのほか、自分の意思で継続的に学習する」(66.3%)、「授業の復習をする」(58.4%)項目は数値が伸びており、自主的に学ぶ意欲を示す学生が、コロナの影響を受ける前から年々増えてきていることがわかります。

本学では、感染症の拡大防止と学生の学習機会の確保の両立に努め、学生の主体的・能動的な学習を支援するさまざまな取り組みを進めています。たとえば、先述の本学独自の学習支援システム「TALES」^(※2)は、授業の映像・音声のオンデマンド型による配信も可能としており、学生が授業の予習・復習をする際にも役立てられています。また、施設面では、図書館やPC自習室などに対する学生の満足度はコロナ禍でも比較的高く、学生が気軽に利用しやすい施設となっています。こうした自主学習を支援する環境の整備・充実もまた、学生の学ぶ意欲を後押ししていると考えられます。今後も学生の安心・安全に配慮し、同時に質の高い学びを提供できるよう、さまざまな側面から学習環境の充実に取り組んでまいります。

※1 IRとはInstitutional Research (インスティテューショナル・リサーチ)の略称で、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

※2 オンデマンド型とは、学生が自分の好きな時にインターネットにアクセスして授業の映像・音声を再生できる授業形態のこと

奈良学への招待

日本は数年前から、城陽市井手町を主な対象とする寺社文化財の調査を行っています。文学部の杉崎貴英教授(仏教美術、仏像)は10年来、南山城地域に伝わる遺品を対象に個別研究を進め、戸花垂利州講師(仏教美術、彫刻史)は城陽市歴史民俗資料館での企画展示などを担当し、両名は現在も同館および井手町教育委員会との相互協力を進めています。

一昨年には、共同調査の実績をもとに帝塚山大学博物館で第34回特別展示「木津川をめぐる神と仏く井手・城陽の調査から」を開催し、この展示が契機となつて城陽市日棕神社の大将軍神像と井手町西福寺の不動明王坐像が新たに京都府暫定登録文化財に加わるといふ成果もありました。

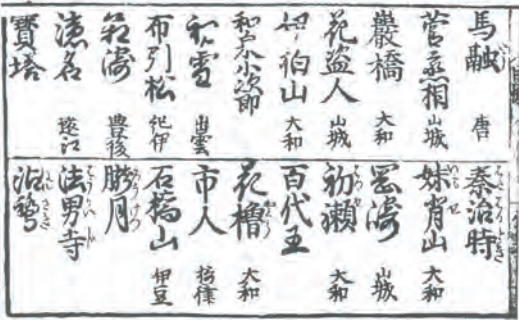
2021年10月30日、12月19日にかけて城陽市歴史民俗資料館 特別展示室(城陽市寺田今堀)で開催された、令和3年度秋季特別展「神のすがた・仏のかたち」城陽・井手を中心に」では、こ

れまで公開してきた文化財に、城陽市歴史民俗博物館と本学が新たに実施した調査内容を加えて展示されました。同展では西福寺木造聖観音立像(西福寺所蔵／井手町井手)、木造女神立像(極楽寺所蔵／城陽市富野南垣内)をはじめとする寺外初公開の文化財も出陳され、内外の評判を呼びました。

なかでも注目を浴びたのは、戸花垂利州講師による城陽市の国史跡「平川廃寺」(城陽市平川古宮)出土の塑像片の調査です。平川廃寺は7世紀後半に創建され、8世紀に伽藍が整備されたとされる国指定の史跡。そこからは約150の塑像片が出土し、菩薩像の部と見られる髪や衣や装身具などの断片は発見されていますが、如来の痕跡を示す断片は見つかっていません。戸花講師が鼻や足の指と思われる6片の破片を3D計測し、200以上の仏像リストと照らし合わせたところ、奈良の薬師寺金堂の月光菩薩像(像高3.15m)との類似性が認められました。そこで月光菩薩像の3Dデータとパーツごとに重ね合わせてみると、多少の誤差はあるもののほぼ同じ大きさだということがわかりました。

「平川廃寺にあった本尊は非常に大きな菩薩像であつた可能性が高い」と指摘する戸花講師。

本調査は、7世紀後半から8世紀にかけての古代寺院の実像の一端を明らかにし、当時の信仰の形の解明に通じるものであるといえます。



▲【写真】貞享四年刊『能之訓蒙図彙』。上段右から五曲目に「伊伯山(生駒山) 大和」とある。

所蔵品紹介

正倉院宝物の鳥毛立女屏風(全六扇のうち第三扇を、ほぼ原寸大に模写したもの。本画に先立つて作成された下絵で、墨線の一部には修正した跡



▲【写真】鳥毛立女屏風模写下絵

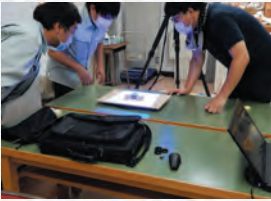
もありました。慶長・元和頃の名寄に散見され、近世の早期に成立していたとみられる作品ですが、残念なことに本文を記した謡本の存在が確認されていません。近世戯作の一つとは思われるものの、未だ内容を知る手掛かりも得られず、生駒にまつわる神武天皇や役行者の伝承、はたまた山麓に位置する往馬大社の祭神伊古麻都比古神を扱ったものかと、種々幻想を膨らませつつ、新たな資料の出現を期待しています。

により仏像修理事業に画工として従事していたこともあり、斑鳩の法輪寺の薬師如来像・虚空蔵菩薩像の光背文様は久留の筆にかかります。そうした経験も通じ古代美術への造詣を深めた久留は、絵画制作にとどまらず、ない文化人であったようです。

昭和三年に朝日新聞社が開催した「天平文化大展覧会」に、久留が模写した鳥毛立女屏風が展示されたことが当時の目録と写真から知られます。この下絵はそれとは別の本画の制作に関わるものと考えられますが、模写に巧みだったという久留をしのばせる点です。

久留春年筆 鳥毛立女屏風模写下絵

文学部 日本文化学科 教授 杉崎 貴英



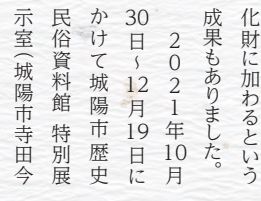
【上右】秋季特別展で展示品を解説する杉崎教授【上左】3D計測画像の前で説明する戸花講師。【中】3D計測調査の様子【下】左から順に平川廃寺塑像鼻(城陽市教育委員会蔵)、平川廃寺3D計測画像(計測アコード)、平川廃寺塑像3D計測画像

研究紹介

2021年9月15日に発表された総務省統計によると、日本における65歳以上の高齢者人口は3,640万人、総人口に占める割合は29.1%に及び、過去最高を記録しました。未曾有の超高齢社会を迎え、高齢者の免許保有率も急速に上昇し、高齢ドライバーの事故防止は近年大きな社会的課題になりつつあります。そのような社会的課題に果敢に取り組む研究課題2件が、この度民間の助成金に採択されました。

公益財団法人日本生命財団の「高齢社会 実践的課題研究助成」に採択されたのは、蓮花一己学長が研究代表を務める「高齢ドライバーの身体機能及び運転行動改善のための介入研究」。生理的老化の一つとされる「身体的フレイル(虚弱性)」に焦点を当て、高齢者ドライバーの「身体的フレイル(※)」が運転行動に及ぼす影響とメカニズムを検証し、その身体能力や運動能力の維持・改善に効果のある教育訓練プログラム(介入方法)を確立するというものです。

法定高齢者講習に参加する70歳以上でかつ第3分類(認知機能が低下しているおそれがない人)を対象に、実車走行や質問紙などで身体機能と運転パフォーマンスの関連を調査。運転行動に必要とされる身体機能のメカニズムを推定し、身体的フ



「その後、フレイルの類型ごとに、自宅で実施できる「運転改善リハビリテーションプログラム」や運転行動改善のための教育訓練プログラムを開発します。高齢者の身体機能と運転行動の低下を早期診断する評価手法を確立し、有効なリハビリテーションや教育プログラムの提供により、高齢ドライバーによる事故を抑制し、高齢者の健康運転寿命を延ばすことをめざします。

高齢ドライバーの安心・安全なカーライフのために意欲的な研究課題2件が民間助成金に採択

学長 蓮花一己
心理学部心理学科 講師 森泉慎吾

三井住友海上福祉財団の研究助成に、「高齢者の運転支援システム利用に影響する要因に関する研究」の研究テーマで採択されたのは、心理学部の森泉慎吾講師。高齢者が自身の運転技能を「高く見積もる」傾向にあることは、これまで数多くの交通心理学の研究にて知られていましたが、本研究では特に、このような自身の運転技能を過信する高齢ドライバーにおける運転支援システムの利用傾向を明らかにします。

70歳以上の高齢ドライバーを対象として、教習所内を実際に走行してもらい、ドライバー自身による運転技能の評価(主観評価)と、同乗する指導員による評価(客観評価)とのズレから「過信傾向」を数値化。その後、運転支援システムを搭載した車を走行し、システムを体験・使用することで、実

際にシステムをどの程度自主的に利用したいと思うかを評価します。

本研究により、高齢者自身の運転技能に対する正しい評価を知り、過信の傾向が矯正されることで、運転支援システムの利用といった安全運転へとつながる可能性が期待できます。また、今後新設される安全運転サポート車(サポカー)限定の免許への切り替えにおいても、その時期を判断するための指針となる可能性があります。

いずれの研究も、高齢ドライバーにかかわる諸問題の解決の一助となるとともに、超高齢社会における高齢者のQOL(Quality of Life)にも結びつく内容として研究成果の実装が期待されています。



※この研究課題で扱う「身体的フレイル」とは、病的老化のひとつである認知症などのように認知機能の低下を伴わず、加齢に伴い身体能力や運動能力が低下している状態を指す。



本学教員の執筆図書紹介

執筆図書一覧

本学教員の著作は、教育研究活動成果の公開を目的として、東生駒キャンパス図書館本館と学園前キャンパス図書館分館の「業績図書」コーナーに配架されています。

(発行年順)						
教員名	所属／役職	分類	書籍名	出版社	発行年月	価格
木村 祐子	現代生活学部食物栄養学科／准教授	分担執筆	応用栄養学(Visual栄養学テキスト)	中山書店	2020年4月	2,700円+税
森泉 慎吾	心理学部心理学科／講師	共著	産業・組織心理学tomorrow	八千代出版	2020年12月	2,700円+税
石田 慎二	教育学部こども教育学科／教授	分担執筆	家庭養護のしくみと権利擁護(シリーズみんなで育てる家庭養護 1)	明石書店	2021年6月	2,600円+税
川口 洋	文学部日本文化学科／教授	分担執筆	社会経済史学事典	丸善出版	2021年6月	22,000円+税
		分担執筆	自然災害と人口(人口学ライブラリー 20)	原書房	2021年8月	3,200円+税
西村 真実	教育学部こども教育学科／准教授	単著	育児担当制による乳児保育 実践編: 一人ひとりの生活・発達・遊びの援助	中央法規出版	2021年8月	2,200円+税
藤原 永年	現代生活学部食物栄養学科／教授	共著	ゼロからわかる栄養系微生物学	南江堂	2021年9月	2,800円+税
赤田 光男	名誉教授	分担執筆	新陰陽道叢書 第四巻 民俗・説話	名著出版	2021年10月	9,000円+税
谷 美奈	全学教育開発センター／准教授	分担執筆	コロナ禍で学生はどう学んでいたのか: 質的研究によって明らかになった実態	ジアース教育新社	2021年10月	1,800円+税
平山 薫子	名誉教授	分担執筆	Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period: Perspectives from Europe and Japan	De Gruyter Oldenbourg	2021年3月	91,99ドル(外貨定価)

令和3年度前期「教職員教育功績表彰」 居住空間デザイン学科 金谷正和 教授



9月25日、東生駒キャンパスで教職員教育功績表彰の授与式を行いました。

「教職員教育功績表彰」とは、本学の教職員の意欲向上と教育の質の

向上や教育実践活動の活性化を目的に、本学の教育実践に顕著な成果をあげた教職員を表彰する制度。今回、表彰の対象となったのは、現代生活学部居住空間デザイン学科の金谷 正和 教授です。

金谷教授は、居住空間デザイン学科の基幹教育でもある基礎デザイン分野において、学生全体の基礎的能力の向上に寄与し、ゼミナールで直接指導した学生の卒業制作作品が著名なコンペティションで入選するなどの成果を挙げたことなどが評価されました。

本学では今後もこのように教職員への顕彰を続け、意識を向上させることで、より高い教育を実践してよう努めます。

令和3年9月卒業式を挙行



9月24日、令和3年度帝塚山大学9月卒業式が東生駒キャンパス「まほろば」で執り行われ、5学部26名が学び舎から巣立ちました。

蓮花一己学長は卒業生一人ひとりに卒業証書と学位記を授与し、続く式辞で今般のコロナ禍でのキャンパスライフについて触れ、「コロナ禍だからこそ、人と人とのつながりを作り出す対面でのコミュニケーションも大切」と話し、対面とオンラインの双方の良さを理解し適切に使いこなせる社会人になってほしいと、卒業生にはなむけの言葉を贈りました。

コロナ禍ということで限られた時間ではありましたが、会場では、教職員とともに記念写真を撮る卒業生の姿が各所で見られました。

戸花講師は、2017年2月より守口市文化財保護審議委員を務められ、同市の美術工芸品の指定や調査に尽力されてきました。それらの活動による守口市の教育に対しての功績が認められ、この度の表彰につながりました。



日本文化学科の戸花重利州講師が 守口市教育功労者として表彰



市発展に貢献できるよう努めていきます。

本学と生駒市は2011年、商工観光事業の推進を目的とする連携協定を奈良県下で初めて締結し、これまで学生と教職員が同市の活性化に向けて多くの産官学連携プロジェクトに取り組んできました。今年度実施されている一連の市制50周年記念事業においても、「帝塚山大学いこま教養講座」を同市と共催するなど文化教育事業で協力しています。今後も変わらず、本学の教育研究分野の力で生駒市の発展に貢献できるよう努めていきます。

生駒市から本学に感謝状贈呈

11月7日に行われた「生駒市 市制50周年記念式典」において、同市の教育分野での発展に寄与したとして本学に感謝状が贈呈されました。

若い人にもっと奈良県産の柿を！ 食物栄養学科でマーケティング調査 SNS映えするスイーツを開発して「なら和み館」で限定販売



現代生活学部食物栄養学科の藤村太郎教授（食品科学）のゼミ生5人によるレシピをもとにした柿のスイーツを、10月2日～31日にかけて、なら和み館（奈良県奈良市高畑町）の「Restaurant&Cafe あをがき」で限定販売しました。

学生は奈良の農産品を使用した土産物の調査や企画などの活動を通じて、奈良県の特産品でもある柿が収穫量の3分の1も廃棄されているという事実に着目。同時に、柿の消費量が年々減少傾向にあることや、若者の好きな果物ランキングに「柿」が入ってこないことなど、若者の柿離れが消費量減少の原因の一つであることに関心を向けました。

◀奥左から3つ目が「柿のみたらし団子」。手前の右端が「柿のバナナコッタ」期間中は、「帝塚山大学」を合言葉に「しかクッキー」をプレゼントするキャンペーンも実施した。アンケートにも回答してもらい、奈良の農産品の活用企画の基礎データとする予定。

学内で柿の嗜好調査を実施したところ、やはりここでも若者の柿離れを裏付ける結果に。そこで「若者受けする柿のメニューを作ろう！」と学生が新たに考案したのが「柿のみたらし団子」と「柿のバナナコッタ」です。なら和み館とのコラボが実現し、スペシャルプレートとして販売する運びになりました。

使用する柿はすべて奈良県産にこだわり、店舗では、秋の味覚が満載の「ミニパフェと5種類のスイーツ盛り（税込み1000円）」として販売。当初10月だけの限定販売の予定でしたが、柿スイーツの好評を受けて、別メニューのプレートとして11月まで販売が延長されることになりました。

東生駒キャンパスの豊かな自然をめぐる 学長エッセイをきっかけに

東生駒キャンパスに植栽されている樹木はその種類が200を超え、植物園として通用するほどの豊かさを誇ります。春には満開のサクラ並木が、秋には金色のイチョウ並木が四季折々の風景を彩ります。

かつて大阪市立大学理学部附属植物園（現：大阪市立大学附属植物園 大阪府交野市私市）で植物園長を務められた故高田英夫学長（1982年～85年／大阪市立大学名誉教授・帝塚山短期大学名誉教授）が結ばれた縁で、経済学部創設（1987年）前後から同植物園よりハナミズキやセコイアなど約100種の1000本を超える樹木の寄贈を受け、開学当時（1964年）からの植物と合わせてキャンパスの植栽が整備されました。また、樹木に植物名と属名が記された黒い名札が取り付けられているのも高田学長らの発案によるもの。

—— 大学で歩きながら思索にふけり、ふと立ち止まったときに目にした樹の名を知る。樹の名は忘れたとしても、大学を回想したとき、そんな思索の深みを忘れないでほしい —— そんな思いから名札をつけたのだと帝塚山学園新聞第236号（1999.6.17）で語られています。

今年度大学HPで連載が始まった「学長エッセイ」で、蓮花一己学長がキャンパスの樹木をテーマにしたことに端を発し、大阪市立大学附属植物園に勤務されている同大学大学院理学研究科生物地球系専攻 准教授の厚井聡先生と植物園の職員の方々に東



留学生在が日本語で熱弁をふるう中、11月20日のコンテストでは、12人の

この度、「日本文化学科の留学生のスピーチコンテスト優勝」を目標に掲げ、同学科の日本語教員養成プログラム（以下、プログラムの）3年生が、コンテストに出場する留学生への日本語指導に乗り出しました。学生は外国人留学生3人とミーティングを重ね、テーマ選びから、話の進め方、日本語の言い回しなどのチェックなどを行い、ともにスピーチ内容を練り上げました。

毎年「虹色祭」にあわせて開催される「留学生日本語スピーチコンテスト」。外国人留学生在が思い思いのテーマで日本語のスピーチ力を競います。奈良県で行われる外国人留学生スピーチ大会の予選を兼ねる本コンテストは、今年度で23度目を迎える本学の恒例行事です。

プログラム学生からのサポートを受けたりヨウ・イクロウさん（日本文化3年）が庄巻のスピーチ力を発揮して優勝。奈良県の本選に出場することが決まりました。12月9日にオンラインで行われた本選では、プログラムの学生に画面越しに見守られてリヨウさんは見事3位入賞を果たしました。

12月12日には、マレーシアからの留學生アブドル・コユムさん（日本文化4年）が企画する「日本文化交流会」が行われ、日本語教育に関心のある日本文化学科の1、2年生が、外国人留學生と交流を深めました。日本人学生は留學生とともに弓道や茶道などの日本文化体験を楽しみながら、弓の引き方やお点前の作法にとまどう留學生をサポートしたり、その文化的背景を説明したりしました。

外国人留學生にとっては、アニメやマンガだけでなく、日本の伝統文化も依然として関心の高いコンテンツです。本文化交流会では、日本語教育に関心のある日本人学生にとっても、奈良で日本文化を学んでいるという利点を生かし、日本語学習者としての留學生に対して異文化の魅力をわかりやすく教える良い機会となりました。

▶弓道や茶道のほかには華道、合気道なども体験。初めて日本の伝統文化に触れたという外国人留學生がほとんどで、企画者のアブドルさん（写真中央）や日本人学生が説明する内容を興味深そうに聞いていた。



ネットいじめなどの被害を防ぐには
経済経営学部がボランティア活動報告で登壇 「奈良県スマホ学生フォーラム2021」



12月12日、奈良県橿原文化会館（橿原市北八木町）において開催された「奈良県スマホ学生フォーラム2021」で、経済経営学部3年の鶴岡芹菜さんが発表を行いました。

近年、SNSに起因する犯罪被害やトラブルが多発しており、「ネットいじめ」などが発端となって自殺に至る事案も発生するなど、青少年の不適切なインターネット利用が社会的な問題となっています。本フォーラムは、高校生や大学生によるインターネットの安全・安心な利用に関する取り組みの発表や意見交換を通じて、青少年のネットリテラシーを向上させることを目的に開催されました。

情報誌とコラボして
大和野菜レシピを動画配信
Yahoo!ニュースでも連載

食物栄養学科の佐伯孝子准教授（食生活学）のゼミでは地産地消をめざし、大和野菜や奈良県産の食材にこだわったレシピ開発や食育活動を、地域や企業と連携して推進しています。これまでも地元ケーブルTVで大和野菜のレシピを毎月配信していましたが、この度、奈良の地域Web情報誌「ぱーぶる」と連携し、「大和野菜でおうちメシ」という動画レシピの配信を2021年11月から始めました。「ぱーぶる」の記事としてYahoo!ニュースにも連載されます。コロナ禍で外食を控える人が多い中、大和野菜をたっぷり使った簡単レシピでおうち時間を楽しんでほしいとの願いが込められています。



興福寺中金堂再建余材を興福寺から寄贈
東生駒キャンパス1号館に常設展示

2018年、「天平回帰」をめざし301年ぶりに再建された興福寺中金堂。5日間にわたり行われた落慶法要には1万人を超える人が参列しました。創建時のままに再現された中金堂から、散華が澄み切った青空にひらひらと舞うさまは今なお人々の記憶に鮮やかなことでしょう。

今回の中金堂再建には大量の木材、しかも巨木が必要とされました。天平時代からの基壇に立つ66本の柱は、原材料とする大木がその大きさのあまりに日本国内では手に入らず、はるか遠くアフリカのカメルーンよりケヤキが調達されました。

その中金堂再建に使用された柱の余材を、この度、興福寺から本学に特別にご寄贈いただきました。余材は直系77cm、高さは約59cm、重さは推定で170kgにも及びます。中金堂の艶やかな朱色の柱と同じく、表面にはベンガラによる朱塗りが施され、「ヤリガナ」での加工の跡もはっきりと残っています。中金堂再建の姿を伝える貴重な実物資料である余材を、古都奈良をフィールドに学びを深める文学部を象徴するものとして、東生駒キャンパス1号館の1Fに展示しています。皆さんもぜひ実物を間近に見てください。



前年度に続いての快挙
居住空間デザイン学科の学生2名が
京都デザイン賞で入賞

居住空間デザイン学科3年生の奥村奈央さんと奥村里奈さんが公益社団法人京都デザイン協会主催の「京都デザイン賞2021」において入選を果たしました。

京都デザイン賞は、京都の伝統と文化を守りながら、新たなデザイン手法を用いて、新しい京都のデザイン創出を図る作品を発見、顕彰し、その良さを広報して流通に乗せることを目的に作品を公募するもので、今年で13回目を迎えるデザインコンペティションです。



プロも多く応募するレベルの高いコンペティションにおいて、昨年に引き続き本学の学生が入選するという非常に喜ばしい結果となりました。2人の作品は12月10日から13日にかけてくろちく天正館（京都市中京区新町通錦小路上路百足屋町）で展示されました。

▲【写真上】指導を受けた大里浩二准教授を囲んで記念撮影。向かって左が奥村奈央さん、右が奥村里奈さん。
▲【写真下】左から奥村奈央さんが手がけた日本酒のボトルラベルデザイン、奥村里奈さんが手がけた豆腐のパッケージデザイン。

こども教育学科の学生が作画を担当 言の葉大賞® 受賞作品が産学連携で紙芝居に

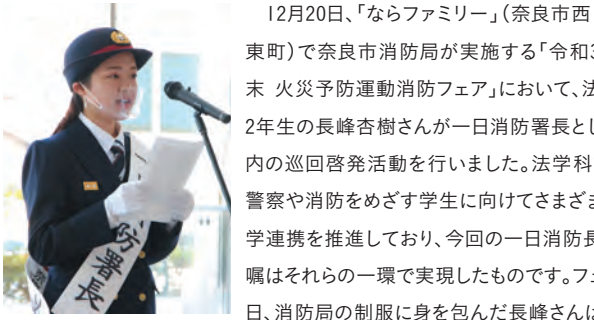


▲学園前キャンパスの子育て支援センターで行われた贈呈式の後、紙芝居の完成品を並べて徳永准教授と記念撮影。学生の個性と感性が光る5作品。



▲言の葉協会の担当者からのアドバイスを受けながら、原作の魅力をどうやって表現するのがよいのかラフスケッチをもとに試行錯誤した。

「火の用心」
法学科の学生が一日消防署長として
火災予防啓発活動



12月20日、「ならファミリー」（奈良市西 大寺東町）で奈良市消防局が実施する「令和3年歳末 火災予防運動消防フェア」において、法学科2年生の長峰杏樹さんが一日消防署長として店内の巡回啓発活動を行いました。法学科では、警察や消防をめざす学生に向けてさまざまな官学連携を推進しており、今回の一日消防長の委嘱はそれらの一環で実現したものです。フェア当日、消防局の制服に身を包んだ長峰さんは一日消防署長として宣誓を行うと、消防局の職員の方々とともに店内の防火管理状況を視察し、市民の方々に歳末の火災予防を呼びかけました。

「消防官にあこがれているので、身が引き締まる思い」と長峰さんは話し、「消防局の方と巡回してみても、防災や安全のために注意すべき点がよくわかった。これからは地域の安全にもっと意識を向けていきたい」と、消防官への夢を新たにしようでした。



食堂でさらに徹底した感染予防対策

本学では、学生の皆さんが安心・安全な学生生活を送れるよう、厚生労働省が推奨する基本的な感染防止対策（①検温・健康管理②手洗い、消毒の徹底③ソーシャルディスタンスの確保、④マスク着用、⑤換気の徹底）を取り入れた、「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」や「対面授業における感染拡大予防マニュアル」に基づき、キャンパスで感染防止対策を講じています。

昨年度から、手指のアルコール消毒液の設置、飛沫感染を防ぐためのアクリル板やビニールクロスの敷設、使用施設の消毒や換気の徹底などの対策を行ってきましたが、今年は、さらに強力に飛沫感染を防ぐパーティションを両キャンパスの食堂やフリースペースに新たに設置しました。また、食堂混雑時には、三密を避けるために職員が学生の誘導を行い、黙食をブラカードで呼びかけています。

また、両キャンパスの入口にはサーマルカメラを設置して検温を実施し、学生が安心して学修できる環境を整えています。



▲パーティションが設置された食堂
【写真上】東生駒キャンパス 【写真下】学園前キャンパス

EVENT & INFORMATION

UPCOMING SEMINARS 開催予定のイベント

帝塚山大学・(公財) 奈良市生涯学習財団共催 公開講座

ストレスと上手に付き合おう マインドフルネスを中心に
今回はストレスの成り立ちを学び、マインドフルネスを用いたストレス対処法を体験します。

- 【開催日時】 第1回 2022年2月18日(金)
第2回 2022年3月4日(金)
いずれも10:00-11:30
- 【開催場所】 西部公民館 4階会議室
(奈良市学園南3-1-5 近鉄奈良線学園前駅南出口すぐ)
- 【講師】 山口 祐子 准教授(帝塚山大学 心理学部)
- 【定員】 40名(申込多数の場合は抽選)
- 【受講料】 無料
- 【申込締切】 2022年2月9日(水)はがき必着
- 【申込方法】 奈良市生涯学習財団HP『学ぶなら』(https://manabunara.jp)から所定の申込フォームから、もしくは往復はがきで「西部公民館(〒631-0034 奈良市学園南3-1-5)」までお申し込みください。
- 【お問い合わせ】
(公財)奈良市生涯学習財団 西部公民館
TEL:0742-44-0101



公開講座 奈良学への招待XX

2021年度の「奈良学への招待」は、新型コロナウイルス感染症対策のため対面での講座を実施せず、お申し込みいただいた方に限定して講座動画を配信します。本講座を通じて、新たな奈良の魅力に触れてください。

- 【配信期間】 2022年2月18日(金)～3月18日(金)(予定)
- 【受講料】 無料
- 【申込方法】 大学HP「公開講座ページ」の所定の申込フォームから視聴をお申し込みください。
- 【視聴方法】 大学よりメールで送られた視聴用アドレスにアクセスして視聴してください。
- 【配信講座】 (いずれも仮題)
(1)「大和の初春行事」
高田 照世 教授(帝塚山大学 文学部)
(2)「葛城の鴨都波社と高鴨社」
鷺森 浩幸 教授(帝塚山大学 文学部)
(3)「平川廃寺尊像復元考」
戸花 亜利州 講師(帝塚山大学 文学部)
(4)「石位寺三尊石仏の近現代」
杉崎 貴英 教授(帝塚山大学 文学部)
- 【お問い合わせ】
東生駒キャンパス 総務課 公開講座係
TEL:0742-48-9192(平日9時～17時)

【2021年度下半期】市民大学講座 ※Zoomによるオンライン講座

- 1月22日(土) 第467回市民大学講座(第14回博物館実習生による企画展示関連講座)
「1950年代の大和路～昭和の風景をふりかえる～」
伊藤 純(帝塚山大学非常勤講師)
- 1月29日(土) 第468回市民大学講座
「新聞記者から見た古代日本－発掘の現場から－」
関口 和哉氏(読売新聞)
- 2月12日(土) 第469回市民大学講座
「陶邑と渡来人」
植野 浩三氏(元奈良大学教授)
- 2月26日(土) 第470回市民大学講座
「葛城の古道を辿る－葛城氏と雄略王権の確執－」
千賀 久氏(葛城市歴史博物館特任館長)
- 3月19日(土) 第471回市民大学講座
「夏見廃寺出土埴仏の制作とその背景－持統朝の仏事－」
清水 昭博(帝塚山大学 文学部教授)
- 3月26日(土) 第472回市民大学講座
「古代国家防衛の視点から見た紀伊・道成寺」
甲斐 弓子(帝塚山大学考古学研究所 特別研究員)
- 【開催日時】 14:00-15:30
- 【定員】 100名(申込先着順)※各講座で受付開始日が異なります。
- 【受講料】 無料
- 【申込方法】 帝塚山大学附属博物館HP
(https://www.tezukayama-u.ac.jp/museum) から
- 【お問い合わせ】
帝塚山大学考古学研究所
TEL:0742-48-9700 / FAX:0742-48-8783
Mail:arch@tezukayama-u.ac.jp

EXHIBITION

第14回博物館実習生による企画展示

附属博物館を設置する本学は、学芸員資格取得に必要な「博物館実習」を本物の史資料に触れながら学内で行うことができます。本企画展示は、その学びの集大成として文学部の学生が企画・立案し、毎年1月に一般に向けて開催するものです。

【観展喜知(かんでんきち)～近現代の人々が旅した日本の風景～】
2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大とともに、私たちの生活様式は大きく変化し、さらに各地への観光も制限されるようになりました。今回の企画展示では近現代を中心とした全国津々浦々の観光パンフレットや鉄道関係の資料を展示します。本展を通じて、往時の旅情を味わっていただくとともに、新型コロナウイルス収束後に各地の観光地に足を運んでもらうきっかけになれば幸いです。



◀東京名所絵ハカキ
(上野公園動物園前)
大正11年(1922)

- 【開催期間】 2022年1月8日(土)～2月10日(木)
- 【場所】 帝塚山大学附属博物館
- 【入館料】 無料
- 【休館日】 日・祝、1月14日、15日、20日、21日
- 【お問い合わせ】
帝塚山大学附属博物館
TEL:0742-48-9700
https://www.tezukayama-u.ac.jp



▲真面電車沿線案内図

FINANCIAL REPORT

令和2(2020)年度決算について(報告)

帝塚山大学を設置する学校法人帝塚山学園の令和2(2020)年度決算が、令和3(2021)年5月27日開催の理事会において承認されましたので、概要をお知らせします。



【収入】
収入の主たる科目は次のとおりです。
・学生生徒等納付金 対前年度 2千4百万円の増
・手数料収入 対前年度 2千7百万円の減
・経常費補助金 対前年度2億6千6百万円の増
・雑収入 対前年度 2千4百万円の増
・資産売却差額 対前年度 3千万円の増
収入全体としては前年度と比較して3億3千万円の増となりました。
その主な理由は経常費補助金の増加です。また、奈良市道路整備事業に伴う学園用地の一部売却による特別収入も寄与しています。

【支出】
支出の主な科目は次のとおりです。
・人件費 対前年度 3千万円の増
・教育研究経費、管理経費 対前年度1億2千6百万円の増
支出全体としては前年度と比較して1億3千万円の増となりました。
その主な理由は、大学授業料減免費交付金による奨学金の増加、退職者数の増による退職金の増加、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校や出張制限等により、主として大学の光熱水費、旅費交通費等が減少したことによるものです。

【収支差額】
「基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支)」は2億3千万円の支出超過となりました。前年度と比較して支出超過が2億円改善しましたが、これは新型コロナウイルス感染症拡大に伴う諸経費の減少及び、奈良市道路整備事業に伴い、学園用地を一部売却したことによるものなので、依然として改善は必要です。
大学での5年連続の入学定員を上回る学生確保をはじめ、各学校においても概ね定員を確保することができました。学部学科の再編、入学定員の見直し、授業料の改定、教職員定員管理の適正化等、諸施策を役員・教職員が一丸となって取り組んだ結果が表れてまいりました。今後も学生・生徒・児童・園児を第一に考え、学習環境の向上、キャンパス整備等に取り組むとともに財政健全化計画を完遂してまいります。

NEWS

第55回 帝塚山大学卒業式 第30回 帝塚山大学大学院修了式

- 【日時】 令和4(2022)年3月23日(水)
13時00分開式
(入場受付:12時～12時30分)
- 【会場】 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

※ 2021年12月末現在の予定
※ 新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、予定を変更する可能性がありますので、最新情報については大学HPで必ずご確認ください。



▲写真は令和2(2020)年度実施



第54回 帝塚山大学卒業式
第29回 帝塚山大学大学院修了式

訃報

本学の経済経営学部准教授の寺地祐介先生が、2021年12月12日にご逝去されました。(享年41歳)
ご専門は都市経済学および交通経済学。主な論文に「Price Competition of Airports and its Effect on the Airline Network」「The Organization of Multiple Airports in a Metropolitan Area」など。本学ではミクロ経済学や地域アクティブラーニングなどの科目を担当されました。特に、地域連携、産官学連携活動に精力的に取り組まれ、2019年6月に本学が主催し開催した「産学連携学会 第17回大会 奈良大会」では運営の中心的な役割を担われました。
ご生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



本学の名誉教授であり、元法政策学部法政策学科教授、大学院法政策研究科教授の小川幸士先生が、2021年10月6日にご逝去されました。(享年81歳)
積水スポンジ工業株式会社(現:積水化成成品工業株式会社)、積水化学工業株式会社で一貫して法務担当として実務に携われ、社団法人大阪工業会経営法務委員会で委員を務められた後に本学に着任。企業法務のご経験をもとに多くの著書や論文を発表されました。
ご生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。





国際交流



もともと教育に関して勉強したいと思っていたこともあり、3資格（小学校教諭・幼稚園教諭・保育士）が取得できることにひかれて帝塚山大学に進学しました。英語に興味を持ったのは、高校1年のときに太陽電池に関する提案で全国2位に選ばれ、シンガポールで行われたInternational Science Youth Forumに派遣されたことがきっかけです。ほかの国の発表者の英語が聞き取れなかったり、うまく会話ができなかったりして悔しい思いをしたので、もっと英語力を磨きたいと思うようになりました。大学に進学したら絶対に留学して、「英語と児童教育を勉強する」と心に決めていました。

留学先のニュージーランドのAra(ARA Institute of Canterbury)は英語学修だけでなく選択カリキュラムも豊富で教育学関連の科目も学べることに魅力を感じています。チャ

イルドケアのボランティアも経験できそうなので本当に楽しみ。海外でしかできないことにチャレンジしようと思っています。留学するまでに日本でも英語力を磨こうと、大学のEnglish Loungeも活用しています！テーマに沿った会話だけでなく、フリーカンパセーションの時間もあったり、英会話力が少しずつ身についてきたのを実感しています。留学は夏から1年間の予定なので、出発までにTOEIC750点を超えることが目標。ラジオ英会話や英語音声素材で少しでも多く英語に触れるように努力も続けています。

将来の夢は、教育現場の知識を持った研究者。今は、3資格を取って、教育現場に立ちつつ英語や児童教育も究めたいと思っています。

でも、留学先で新しい扉が開かれるのとはいう期待もあって、これから体験できる新しい世界に今からワクワクしています。

幼小保の3資格を取って 将来は英語と児童教育の研究を



教育学部 こども教育学科1年

中野内 亜美さん

2022年の夏に、「海外留学奨学生制度」を利用して2年間の留学に飛び立つ中野内亜美さん(こども教育1年)。留学への抱負を聞いた。

海外留学奨学生制度(正規留学:1年／語学留学:6カ月)

応募区分	正規留学	語学留学
対象学部	全学部	
対象学年	2-4年(留学時)	
派遣人数	全学部計6名以内	東生駒キャンパスおよび学園前キャンパスごとに6名以内(合計12名以内)
留学先	原則として大学の推奨する協定大学	
留学期間	1年(在学期間に算入)	6カ月(在学期間に算入)
学費	留学期間中の帝塚山大学の学費は免除	
奨学金	最大で120万円	最大で70万円
語学力	一定のレベルが必要	

留学制度には、「海外留学奨学生制度」のほかにも、約1カ月間、海外の協定大学で語学を学び、国際感覚を身につけることを目的とした「海外短期語学研修制度」もあります。

Berlitz English Lounge



大学キャンパスでネイティブから
英語が学べる

東生駒キャンパス 開講日：月・水

学園前キャンパス 開講日：金

英語教育のプロが「英語を母国語としない人の英語教育法」を展開。世界水準の学びで英語でのコミュニケーション能力・プレゼンテーション・ディスカッションスキルを身につけます。英語力向上をめざす学生のために、全学科対象のオープンクラスを設けています。

2022年度 学部入試日程一覧

入試制度		出願期間			試験実施日	合格発表
		開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日 [※]		
一般選抜	A日程 後期	12月20日(月)	2月3日(木)	2月4日(金)	2月7日(月)	2月13日(日)
	B日程	1月20日(木)	2月14日(月)	2月15日(火)	2月17日(木) 2月18日(金)	2月25日(金)
	C日程	2月9日(水)	2月25日(金)	2月26日(土) 2月28日(月)	3月2日(水)	3月9日(水)

※ 願書の窓口受付は東生駒キャンパス入試広報課でのみ受け付けます。
(平日) 9:00~17:00 (土曜日) 9:00~13:00

2022年度 大学院入試日程一覧

博士前期課程・博士後期課程

出願期間 1月21日(金)~1月28日(金)

締切日消印有効

選考日程 2月8日(火) 合格発表 2月18日(金)

※選考方法などについては、右記までお問い合わせください。

入試制度		出願期間			試験実施日	合格発表
		開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日 [※]		
大学 共通テスト 利用入試	前期	12月20日(月)	2月3日(木)	—	個別学力 検査は 実施 しません。	2月13日(日)
	後期	2月9日(水)	2月25日(金)	—		3月9日(水)
総合型選抜	3月 自由応募型	2月22日(火)	3月7日(月)	3月8日(火)	3月11日(金)	3月12日(土)

【お問い合わせ】 帝塚山大学 入試広報課

Tel 0742-48-8821(直通) Fax 0742-48-9021 nyushi@jimu.tezukayama-u.ac.jp

人文科学研究科 日本伝統文化専攻

〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1
Tel 0742-48-8150 [教学支援課(文学部)]

心理科学研究科 心理科学専攻 (心理学専修・臨床心理学専修)

〒631-8585 奈良市学園南3丁目1-3
Tel 0742-41-4720 [教学支援課(心理学部)]